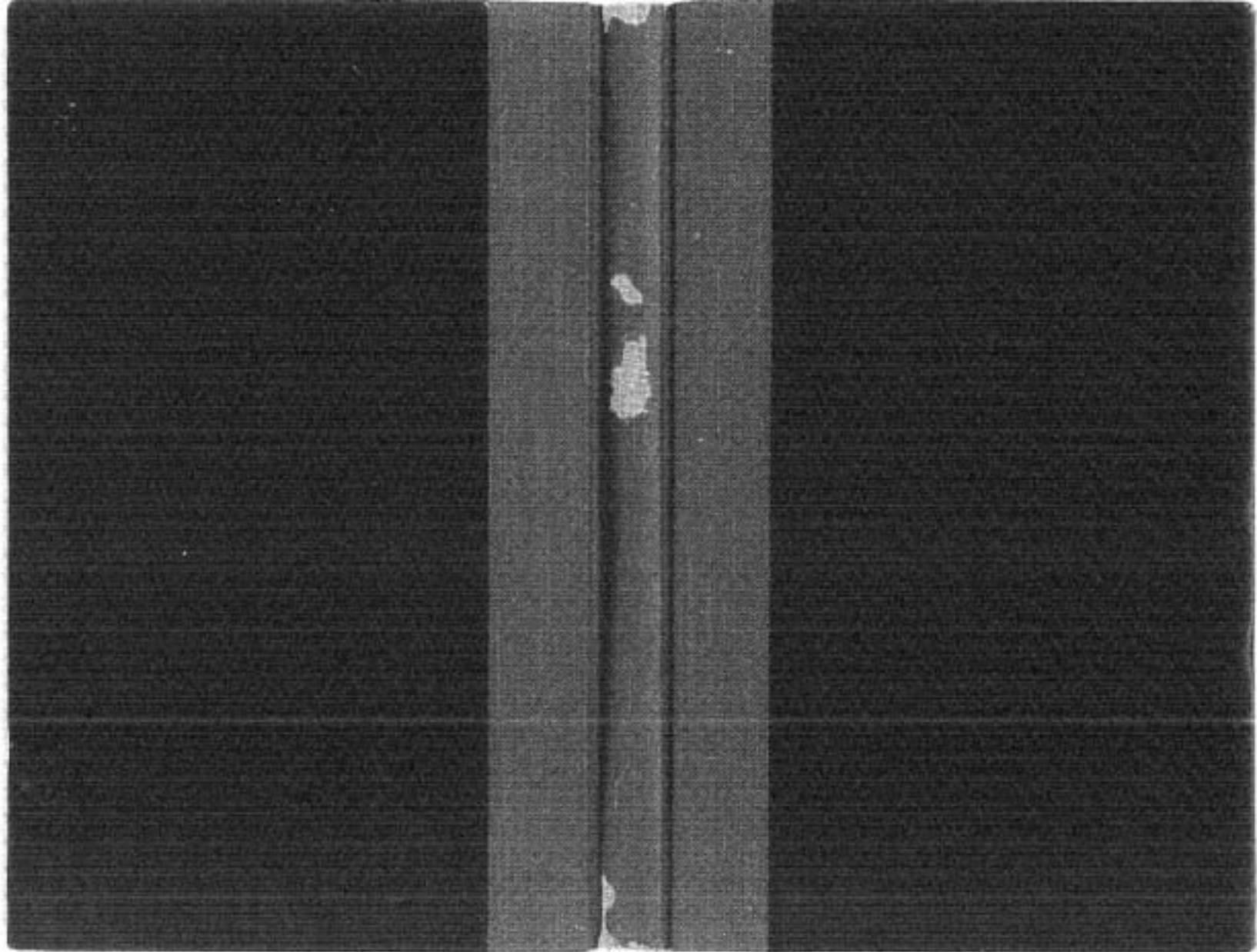


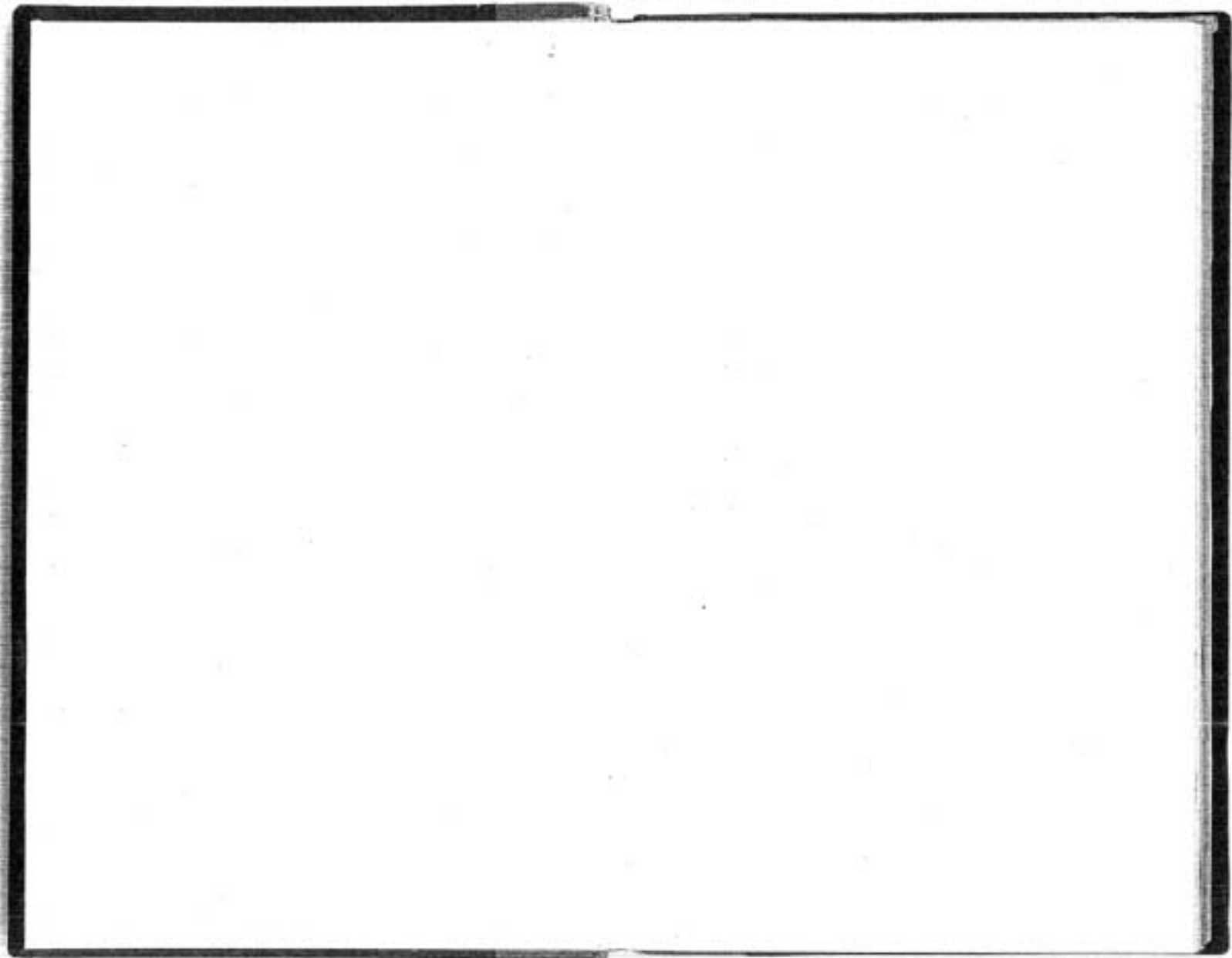
9

9

M. 24. 3.06
~ 5.10

うきよのたひ





浮世の如く

九巻

明治二十四年三月六日(金)

例ノ通りデハタカク早目ニ起キテタリ
朝飯ハ足ク長ヨリ土産ニ思ハス
三膳ノ代更ケル筈ト来テウトト来テ
トニモコトヘラシマセナ.....

大時家ニリルカモ正午官島、長谷、
山田ニ客来リシカ夕食後休息シ
書面ニ通ラ忍メ次ニ字事ノ研究ニ
従ラズ然レ今日モ雨シコト(ト降)
テ氣ノ引キ立タ故ニ合ノ酒ヲ飲ミ
テ勇氣ヲヨソホヒカク一心不亂ニ
強シテ十一時ニ至ル頃ニハ門外ニ
リヨリ来テ向カ大庭ニ立テタル者
子ナルガヤガテ再ヒ何事ヘカ立テ去リ
リ今更ニモ外シ白ト相協ニ定マリ
余ハニ合ノ酒ニサシク酌ニシモト見
ヘ下ラコトヲ考ヘ出シタリ矢更ニ大
キキ考ヘテ出シタリ。フマツ月圓スイガキマ
ラヌナニヤート猫カ膝ヘ上リニテ
又モヤ下ラテ考ヘル。ア^猫猫^猫
ニモ他ノ思事ニシテモアル。猫
ヲモ猫ガモ中々ソ一息ニガモナシ。

狐、痛た僕モ境外ニ復カウ坐ル。余ハ
生シテ博物學ヲ好ムバ、狐ガヲ研究ス
テ充テ得喜ク。猫モソノ通リテウセシ。
何ガサア面白キコトハ、假キヤ五ヤ、
無イ哉、ナリ哉。懸遊氏近比及リ
(イノモノクセ) 金子ニ之クシテ遊
遊セト云ハ、今夜ハ、多クノ
遊遊ヲナカレト云ヘ、諸君物、
タシニ、彼ト同遊シテ、見玉ヘ
浮世ノ有様ヲ知ル、遊遊ニ
ナラハ、嬉シキ哉、樂バシキ哉。

三月七日(土)

今日土曜日に上、都立
大に赴き、存続会に出席し、居
る者、来らざる者、起立、カウ
ンセル、筆記に従う。大いなる費
や、余の勤く、十時、又今日ハ
土曜日の、何ッ土曜日の、中、往
う、サレ、恩ハ、カ、ジン、geld、ハ、ナ、シ
ト、云、テ、室内、ニ、禁、居、シ、其、ハ、氣、ガ、ス、マ、マ
即、チ、登、リ、出、シ、本、館、ヲ、下、リ、テ、中
野、野、郎、ト、云、フ、牛、肉、店、ヘ、登、リ、ニ、テ、
酒、ト、ニ、テ、ナ、ベ、テ、飲、ム、其、ト、家、
ノ、内、ニ、テ、十、二、時、ニ、返、シ、余、ハ、他、ノ、考、
事、ヲ、考、テ、送、リ、テ、ヨ、ウ、ヤ、リ、一、時、寝、
ル、事、ナリ

二月九日(月)

八時半登校ニ時半号校ヲキテ上ケ
長丸、夕雲、山下ト共ニニコライニ赴
キ中へ入リテ見ケルニ内ニ立俣ナリ
又橋へ上ルヲユルカサリイサニ
(遺物ナリナリ)日可持井ニ登ヒ共ニ
登リケルニ赴キ余、直ヤニ去リシコ
ノ食ヲ現ニ持ル中中山老氣、眼
ヲ鉛板ニ人車路スルカハ等ヲ
ヲ控シテヤガテリヨリ中山トテ空路ニ
ソニ時ヲ得ルハ半校ニ於ケル所
畧ヲ復ト出シ、山田鉄死ヲ予ニ
田中、那阿等ヲ予ニ控ニ應テ
控預ニ録ル中ニ終アリ中山ハ牛肉
ヲオボルト云フニ由リ大兩ヲ配シテ豊
國ノ行キ難クテ買ッテ家ニリヨリニハ
十時半ナリ今日見ノ足馬生ヲハキテ派
クテニ翌日見ニヒヨリナリ十一時迄
キ見那阿氏ヨリヨリ控ニ視ル余モ
少シク茶路ヲ書キ十一時連夜ニ就
キリ。

二十日 × (火) (火)

帝子御等モ八日川舟式ヲ先ケタリ
皇女御等ハ集御院ノ十學ヲ撰
出シタリ余ハ聊カ布カ各人物ヲ
ツヒヒテ其ノ果シマン

(激烈家) 191 遠坂若星
82 楠本盛持
37 尾崎行雄
29 河島 隆

初智デハ 191 森 正ア登
82 山崎 隆
37 小林 隆

(苑種家) 153 楠本正ア登
75 中島 信
初智デ 153 芥沢孝太郎
75 浅沼 彰子

(博識家) 349 末松 謙澄
初智デ 100 伊東 忠
85 服部 鋳

(雄辯家) 151 高野 隆
148 井上 龍
初智デ 151 小林 隆

	148	山崎操純
(藤原家)	127	陸奥宗光
	41	大莊嘉門
有為智	127	栗林隆三郎
	41	鹿正平庵
(捲藤家)	111	陸奥宗光
	80	嶋田三郎
有為智	111	折込孝左郎
	110	服部金右衛門
(篤実家)	271	芳野正經
	74	伊野廣中
有為智	200	伊東忠左
	150	内村建次郎
(系族家)	153	井上角也郎
	70	中江篤助
有為智	100	栗林隆三郎
	70	小林原純
(屬格家)	48	中島信竹
	37	島田三郎
有為智	50	服部金右衛門
	30	陣宅倫吉郎
	20	宇佐孫次郎

(泥等類) 152 濱野年
 151 田中屋徳
 150 青田敏助
 50 青柳竜史郎

以上

見ハ奮カ符1足駝ヲ汚シツテモノ
 外ノ立腹ニテ怒ル色ヲ垂リカリ係
 見ハ先日余カ一田右余キヲ以テ見
 ヒシカモ再三余カ見ラヌ帽子ヲ冠
 リ大辟シテトコノ下シタル事モアバ
 ソーヒドク怒ラヌトモヨサソーナモナ
 ズヤ余ハ見ガ帽ヲ落セシキウモ怒ラ
 ザリシナリ余ハ怒ルト云フガ大キヲセ
 ト云フテ何ナコトデモ怒ラヌト云フ
 人好シニハアラス本心モ怒リテモ始
 マラヌ片ハ怒ル心息ナリ思ハバ
 減多ハ怒ラヌト矢張り玉ノ十
 見申原氏ヨリ由テ共ニ余
 出テソバツ者ハ入り玉ノ余
 ム見ハ今迄山田守54ノ一件
 カ7百両斗ツノ借金ヲコレヘタリ
 見ハ一向平氣ナルハサシク取本内アリ

併し百円ヲ費スコトヲ外ニモケツトヨキ
エ夫ハナキモノ乎。余シテバ百円ノ借
金ヲコシラヘル氣デモサレエ夫アリナリ。
兄ハ余カ存念、程々慮カテ辨解
ヲ進ヘルモ兎ニ角見ノ今更ニテ業ノ
余ヲ負ハラヌコトハ、月ナリ見モ自ラ
之ヲ知ルテ多ク後悔ノ氣味ナキレ
アラズ。ドモ見ハ一程ノマフベカラ
ザル奇癖アリト見ユ。十二時家
ニ归リ後ニ訖ク余ハ大ニ水ヲ飲
ミテ宿ヲ碎ラフゲリ

二月十一日 (水)

倒れぬやと時事帰還ス七時区
キナ球際至東ル次テ番坂梯
我來心共し有る事就法 18+
リ之人汽流一時的事九時区中
兩人別ル余ハまわり原籍ヲ携
へ津保河へ行リ Geld 一丈モ
ナクシ徒与セルモ衰シリ津保
河ヲ用テ遊ヒ 12 金内村引神所
ハハヒガ時已ニ十一時ニ匹キ
以テ徒与シテ家リカケルヒ及
ル事、翌日ニテ目ガマワル事怪カ
即ハナシテ讀メる管ヒ湯ヲ飲ニテ
固シクハ腹ヲコロヘ十一時半
ニ就リ見ル今茲江原ヲ行ヒ(山明
休、我大ま3箇ヲ彼ニ酒ヲゴ
ラシ遊ニ日氏1夜ニ泊セリト云

十二日(水)

正午宛局幹公東湯又四時半帰宅六
時頃足車田より区子ハ、ツゲジ、持412
し由テ酒3合スル所カ中山炭是美
也東湯ス依テ其痛飲ニ強引キワ
セテ十時半迄ハ全ハ少シク其物ヲ
テ十一時半寢ニ就ケリ

十二日(金)

先づ例、如く登校の時帰宅ス、ま
じり原路ヲシテ直ヤニ小鉢俵取付
湯に十ヶ程ヲ浴びシテ俵河、此後
是レノ湯ニ直ヤニ那所廻リテ又
ガコニ居ルナラズト念像シテ、
夫婦ト妹ト下宿ハ四人共シテ一軒ノ
家ヲ借り居ルセテ、オ休哉ヨシ、
妹ハ一寸舞ヲ音声ハ希、
酒ヲ命ス、余等ハ酒ノ友ト云ハレテ
モ仕方ガナレバ此法ハ割ニ面白キコト
ナリ、又モ一盤出シテ、十時頃家
中村ノ一ヨリ来リテ、又飲シテ、
那所ヲ出テ、車ヲ乘リテ家ニ
直ヤニ
登リテ、

十四日(土) X

正午ニテ乃モ余ハ外出セシセシガツルテ分
トテ水杉画及漫画ノ画キヲ集シテ山
山崎 茂 氏 来リテ、ニハ余シ金一円ヲ
返シテセニ方ナリ。余ハ彼ニ余ノ美術品
ニ云フト大ゲサナガウ 喜画トドラ地セタルニ
彼ハ大ニ感心シ大ニ余ヲホソクセシハ
中ハ、ニシ若ナリ 然レニ彼シ言フエラニコソ曰ク
。人ヲニ身体ガ非ナリ 叔父君(幸)ナトハ
世人ノ身ニ望ム所ニシテガア 身体ガ弱クハ
トニ多ク望ム所ニシテガア 君モ然リ。
君モア能ク保養ノ主トシ 勉強ハ止メテ身
体ノ鍛錬ニ從フヤコソ 然ラズンバ世人
必ス君ノ望ム所ニシテガア 余共笑シテ、然
リ余ハ君ノ教ニ從ハシ、然シモコソハ君ニ
通ズルノ言ナシト 茶ヘリ 日暮 彼来ル
余ハ直ニ家ヲ出テ芝ノ山 回リ行ケルニ
在ナリ 由テ更ニ中山ヲ行ケルニ 坊ノ不花
ナリ 交リテ 田ノ申内村ヲ行ケルニ 夜
席ニ行カントスルニ 待ツ人アリテ 同意
セシ、余ハ即チ集シモツマラヌト思ヒ
テ、ト本御所ヘ行リ上野マテ 終

片セリ余ハ今夜位ヒ野島セリコトハナナリ
余ハ土曜日の夜ニ牛肉雑食ハルト思ヒシカ
レハノ研究、本夜ニRestaurantト称
ソニテ料理ニ六キノ酒ヲ満足スルヲ
能ハスヲ思ヒ酒地ニ入リテ、ナリトビニ
シテ、お酒持井十次芝セリテ、
「アー伊東先生相カハズヤラカスカ子」
「アー相カハズダ君ハ？」、僕ハコヒテ
「モイケン」ナリ、酒ヲ飲スルヲ一時、北
風儼々強ク一ツカキクモツババト、
アアセリ余ハヒタヌシニヌレテ寒風ヲ
犯シ十一時家ニ入り猫ヲ抱キテ寝ニ
就リ、カシモ寤氣ヲ覺ヘズ翌朝六時
マテ快ヨク寤セリ。

十日(日)

何ト云フ所カカ夫ルマカ、今日ハステキ卑
ハ目ガサソクト云フカク何カト云フカ
何カト云フ。六時ナリ直シハモ一太陽
奈天ニ身ハ外ニ三竿、初メ帰デモ床カ
出ルト云フ時節支シニ鏡木下着テハ下女
ガヤツト起キ出テ不景氣ハ景色デ便
所ハ通フ云フ時刻ニナラズハコソ少シク
アキル子一。余ハ正七時着テ出テクル
ノ巻ハ頭上等ノ hunting 帽ヲ戴キ
下ハ、フラ子¹ノ下衣ニ枚重²上等³ノ
糸織ノ袴綿入⁴三枚⁵ツカサチ(ハン
グサツ⁶囊⁷ガセ⁸氣⁹ガ狂¹⁰ヲ¹¹尾¹²ヲ¹³マカ¹⁴)
上等¹⁵ノ袴多¹⁶帯¹⁷ニ上等¹⁸ノ¹⁹黒²⁰ノ²¹四²²織²³
引²⁴ツカサ²⁵説²⁶ヒケ²⁷、自足袋²⁸ニ五十²⁹軒³⁰ノ³¹腰
太³²ハヨシ³³似³⁴合³⁵ツ³⁶手³⁷ニ一本³⁸ノ³⁹ステ⁴⁰ン⁴¹キ
ヲ⁴²提⁴³ゲ⁴⁴ル⁴⁵開⁴⁶ク⁴⁷際⁴⁸ト⁴⁹ニ⁵⁰シ⁵¹ラ⁵²モ⁵³由⁵⁴緒⁵⁵
フル⁵⁶若⁵⁷殿⁵⁸(オホ⁵⁹ン)ト⁶⁰見⁶¹ヘ⁶²ツ⁶³ト⁶⁴見⁶⁵ヘ⁶⁶行
キ⁶⁷違⁶⁸フ⁶⁹花⁷⁰器⁷¹男⁷²女⁷³珠⁷⁴ヲ⁷⁵女⁷⁶ハ⁷⁷イ⁷⁸ツ⁷⁹レ⁸⁰モ
余⁸¹ヲ⁸²注⁸³目⁸⁴ニ⁸⁵ツ(装⁸⁶様⁸⁷ノ⁸⁸風⁸⁹体⁹⁰ガ
可笑⁹¹シ⁹²イ⁹³カラ⁹⁴ナ⁹⁵、⁹⁶寫⁹⁷履⁹⁸ヲ⁹⁹云¹⁰⁰フ¹⁰¹ナ¹⁰²リ)
命¹⁰³ニ¹⁰⁴直¹⁰⁵鏡¹⁰⁶山¹⁰⁷ノ¹⁰⁸谷¹⁰⁹中¹¹⁰ニ¹¹¹出¹¹²テ¹¹³上¹¹⁴野¹¹⁵ニ

至ッ岸草ハ果トカ風烈シテ妖雲
ハ起ッルハ非田ト押カケ真水英
まなヒ仰供身陽、平田暮3落ッ、
十二時今用ニ入ッテ大ニ飲食シ
ニ時家ノ内ハ江原迄ト更行ッス
余ハ大ニ喜ビ有益ナル事ヲ言出
シテ居ルヲツケルニ孫ニ夜ニ入リ
テ中山来リ次テ下林来リ共ニ大
ニ飲リカキ、中山ノ内ニ居リ江原
ハ大声ノ丈走リ上ル中ニ妙者
ナリト云ハカリ、余ハ喜ビテ叶
一ツ見遣子ヲリリシハト一ツ
命セシ由江原ハ一時ハ地ニ
就キ由、而シテ余ハ、騒々ニ行
ニモ矢ノ又ナリ

二月十六日(月)

例假の終結を以て七日の間に於て
能く校正せし又又十歳に於て急用
而して余の兄に校正を依頼せしむるに
ハ面倒ナル故に付テ差テラタリ
余ハ之を記述し満足は境ヲシテ
兄ハ正當理由ナリ只ハ面倒ナル故
に付テ云フ可クシテ推セバ他
地且病人ノ来訪ヲ良クシテ今日ハ
氣が向カヌカラ診察セヌトハ又ハ七
面倒臭ト病氣ガ診察ハイダ
ナドニテ新ハラシキ事必ズアルヲ証
スベシ余ハ兄有る者ノ幹事ヲ讓
テ思フ考ヘアルガコレハ何ト何
ト、他早ノ次ナリ。余ハ止テ得ヌ
大塚新病舎ニ赴キ下車して校正
依頼ニ當リヨリテ原ヤ言テ思ハ田
中、中山、桑ハ兄ハコレヲ先キ儘
ニ就キテ来友ヲ欠テシテ(ニ起キ
息ガ七時頃カラ寢テシテマ
チ一ニ學術ニ冷淡ナルヲ正シ
身成、倦怠ナルヲ表シ精決ノ不

沈瀆ヲテヌモノナリ 余ハ十時再ビ大塚
へ行キ 十時十分時別後 九時十分時
車田中、中山 芝刈ヨリ、余ハ反死ス
レリテ 十二時 鐘ニ就ク

今日夕刻 旗浦 電死(妻)四方
山ノ方迄、沈スレリル 後余ハ、得ニ
電氣工學士、終局ヲナシ大ニ
得ル所アリキ

校正ノ際見ハ、汝ハ已ニ朱墨ヲ尽
ク使ヒ尽シテ代理ノ見替ハガムハ
何故ツキトヒクマコノルハ、ミケ
腹一五伍バアリ。余ハ平氣ヲ盡テ
目シ、ソナレテ、朱墨が大切ナリ
ハ余ハ直ヤ之ヲ辭候セテ、ソレマ
タ容易キ、然レモ十車ト二十車ノ貨
物ヲホニ使用サレタリテ、ヨルト、
サハルト、云ヒ出シテ、角ヲ立テ、
力齧ヲ入レルニモ及ブマシト
ナセヌ。

父ヨリ 米込人 町田氏ノ末女ナ
ハオナレ見、妻ニヒズキト、手紙ア
リ見ガイヤナラ 忠告ハ如何ニナシ

アツ、係し金ハ向フ五年間ハ
 島に積ラるバ豆からけは辛
 退申す様りナリ是ハナシ思考ス
 ルナカルベカラズ

本日接マラ大ニ嫌恨ノ痛シキアツ、
 ソハ送馬字士ガ釘ノ法カノ極度
 サデ矢リ覺ハザルマカラザルノ惨状
 誇リ、余ハ尋ニ Decorator ナリテニ
 惨状ヲ受レト思フ

本日から了レ之氏ノ演説アツ大
 作ノ主旨ハ今迄減分ヲ減減ス
 セルベカラバ如何モテなレズヤ
 ナサレガ士、整復等ハコレニ因係
 ナリマス（知所セシ乃此道ノ会セ
 世ノ大事ヲ知レルモリナリ整セル
 一ナリ末セアリ

十七日(火)

例ノ如ク五時半帰宅後見「新」
へ行「余ハ厚手襪ヲ履キ(建)比類カ
神守所へ赴キ(建)道中表竹へ
行き見ト出毎ス中縁ト縁カトフ
園キカ 彼ハ七十五点ニハ八十五点カ
トモ何時園ヲモ蘇大夫ハワカラス
園ナル間ハ俗然トシテ世ノ中ノ其ヲ忘ル
ノ思アリキ竹園キハ子年跡カニ
大会ノ酒ヲ飲ム大ニ愉快ナリ蘇大
夫ノ伴ニ興ヲ催シ十二時迄キ帰宅
ニ後ニ就ク

六
七
八

十八日 (水)

今日ハ是れ支那竹ヘ行キテ 續之助ノ朝
自日記ノ間カモト九時勢フルク登校
シカ時ヨリ此スハ村井来リツアリ
彼レト分計上ノ丸金銀ノ出入シテ
双方面白カラヌコトアリ 兄ハ速早ク若
竹ヘ行ク 跡ニ之雄ハ余ハサシク質肉
スルヲツアリ 身體ニ其ノ家ノ出テ (途中
ビールノ飯ニ余ハ若竹ヘ、弟ハ宅ヘ、
(弟ハ試月食シテ本月珠ニテハ棄ラズ)
別ニ別ニテ行ク水ノ流ト人身ノ
作ガ。姿見カハス微行服ノソクト若
竹ヘ入リテ兄ヲ見付ケ。コレハ<兄計
人サゾク究屈デウ待兼マデゴザロー
ト。コレハ<弟、コトノ外履トコトデハアル
ト。上部モ下部モトケレ中。樂シマレツ
見ヘシケル。駒ノ助、佐倉ノ日曜、倒
産走リタル調子、ヨク人ノ心肝ニ差
ユルハ天日晴々ル八十五点。小緑
ノ布引滝、姉ノ癖コソアレ調子ノ
タカナルハ八十点ハ充分々々; 大切
ノ續ノ助、ヒキ式ケレ九十点ヲル

彼の好む令にコギ付ケテ容色一オロ
欠ル。声ハヨシ、キツクハヨシ、同ク種
ノモガ可愛ガリ、綾ヤン綾ヤント云
フテ。矢ルヲヌモノハアツマセヌ。私ニモ
アマリノ可愛サニ。(何ント)。伊何
新竹ノ心打ヤ。ナントマ一感ハ心ナモノ
アレバアムモノデ内坐リマスト。涎片
ノ物ヲ流リ。心ニ~~ソク~~ソク~~ク~~漫ク伊東
(中累)ソハサテ面白イテ流シ。余ハ今夜
湯田シケレバツノ義大丈聞クフハハマイ
カ。ソルハ何ヨリ内易ヒウ用、四銭ノ
木戸~~二~~五厘ノフト。一銭ノ火鉢一
銭ノ茶台セテ六銭五厘、大金
イツカノ歴ハ又男ノ念カ。降リシク兩
ヲ犯シツ。表竹サレテ去リ行ク……
名ニ高キ本郷一ノ表竹亭。銭流シト
スル客ニ。打タマシリナルカガカ声。溢シ
計ギル客足ハ。野シクモマクサマシ。
路難残テナイ金モ。イトハ又忠告ガ。
行キツ去リツ。ヨ一ツウカニ夜席ノ前。
一木戸~~第~~ダヤ。竹本カ取ト云フ残丈
流リ。モ一流テカ?マダカ同カシ同カシ

ト云フ声サハモ哀シク。オノ政ハ今ニマ
先キ徳ヲカガ御ノ大入テ客留ニカク笑止ム
ト云ハルヲサシ誓ヲ所マ客留ニライヲ
仕合セ併シ客ハ千人ニ近ク越路ヲ履
倒ルノ勢アリハ実ニ苦バシ。ソレハ後ニ
自縊ノカ、朝彦ノ死ハ好物ノ式ケマ
十歳ヲ与フ。義ニ申ニ女カ物ノ辱ルナ
ラントヨリ見シニ彼ハ尾ヲスニ置テ
御ゼレニモ酒色ハ痛ク。是レフサギテ
養ハ余ハ佐分判氏ノ鉄道藩ヲ治シ
十二時獲ニ付キ。一天萬年ノ天皇
陛下ト皇方子トノ關係一國ノ大事
究理孝上島ノセンサヲ出スニツタ皇
方子ヲ隔テスル皇方子ノ形優。余ノ
忠節何ダカ實ニ奇好テレフ。ドモ
愛デ好テ。余ハエラキテ夥シク。余
ハ實ニエラキ若トナレト妙ナリ。コノ夢ハ
余トリテサカラザル事ヲ告テ与ヘタ
ト矢ニウケカシ。

十九日(木) X

八時登校。兼テ辰野天狗大博士の肉
 題ヲ終リツリルニ辰野天狗ハ余等ノ
 意匠ヲ散々ニ誹謗シコトニ余、正面回
 ヲ矢鱈ニ攻撃セシムルニ余モ些ト引ケテ
 取リツリ。例ハ通り五時帰宅夕食ヲ
 終リ雜画ヲ事トシ中山虎彦來訪ス
 次テ江原鉤來訪言ガ中書ヘ行ン
 トテ直ニヨル中山モヨルキガテ那野
 勉先生來ル。此ヲ流ハキルノ間、彼
 ハ内々ト原悵ヲ吐キ且ツ北島道徳、
 木村龜等ノ暴揚ヲ品評セリ中ニ面向
 シ彼ハサレハ道理ヲ解スルモノナラズ
 決シテ器物ニ依リ只ク塔ニ依リ雄豪
 瓦葺ノ氣節トキトシ九時半却リ
 猿籠トシ多酔シテ引ルニ次テ足ハ
 匣子ヨリソリ来リ大ニ酒ヲ命シ且
 ツ中原定徳ノソキ大先生ノ妹ト
 ハキ當時乾赤履女ハ履キト云フ女
 ヲ呼ビ裁縫ヲ依頼シ彼女ハ仕事ス
 君ニ終リテ後ヲセテ先ク第一ハ
 産科婦人科トシ、極秘トシテ次ハ

見か山田事54ト、微なる哉。山田の
ゴハ化しハ、Kage"ハ、去ル華族ニ思ハル
ルガ山田ハ、此に來ル華族ヲ固シキ由
由、件新國ハ、公言アリ由、見テ耳カ
興テ同僚アル由、代早浮世ジシテ居ル
コトハアルヲイハシ。見ト内、縫サレハ
四方ハ、浮世下流シ。ハ、縫嬢ハ、見、
中原先生ハ、出シ、馬ト鹿トヲ合併、ハ、面高
生件ニ、医学ヲサシ、前カシテ、ハ、女法醫
片腹トコカ、両膝ガ、痛イト云フ、ハ、サ
。ハ、縫女更ハ、リ、見ト、余ハ、更ニ
酒ヲ、飲入、余ハ、一升ハ、合、ハ、酒ニ、サシ
引、目ヲ、トリテ、又、大ニ、飲、ハ、飲、ハ、マ
酔、解ト、不平ト、悔、悵ト、ハ、三、ハ、大
混、亂ニ、神、心、粉、亂シ、ハ、一、ハ、時、度、ニ
カ、リ。

山田事54ト

己卯二十日 (金)

例儀の朝寝大池に九時半迄校正
午息取部、宗島兩人新入にこの日
池に入湯不七日間 續い 垢コエッ
後心の波 夾火トハル 乃モ 真水 葉夫
表に 甚家 學士 後妻、方針に 死に 顔に
面白キ 友 沈アツ 日暮 彼に 帰に 全に 見に
表に 竹 亭へ 行コト 目ロウ 中 中 村 54-
鳴天 芝と 葉 汚 ヤガテ 又々 田中 苗 新
情士 新 汚 ス 臣ナ 酒 3 命 江 快 了 矣
ス 田中ハ 寂直+レバトテ ハ 何 日 何 日 然ル
中 村ハ 裁判 醫學上 生殖 器、を 診
ナル 記 載ト 同ト 3 欠テ 夢 中ニ 入リ 涎
流セシモ 可 矣 中 村ハ オデン アツ 夜ハ
レ 管 子 教ニ 手 尋 直ニ 同 意ニ 然
ラ 出ル 山 田 入 直 逢ニ 其ニ 新
年ニテ 湯島ニ 至ル 中 村ハ 手ニ 珠 子 3
ツマダツ 珠 子 3 ツ 兎 文 3 唱ヘシガ 芝
中 氣ノ 沙 1 支ト 見ヘズ 揚 3 店 入 子
ヤレガ 花 頭ニ 出テ 悉シク ヨイト、アツ
ト 口 弁バ 吐スル 吐 吐 達ニ コノ 時 早ニ 中
村ハ 珠 子 3 ツ (ト 押シモテ 4=4=4

ト新リカケタルゾ子一サレモタラス
吹中出シテ内臍ヲ出シテ笑ヒ倒シケリ
余等モ思ハズ喝采ヲ天神ヲ下リ
ハ蹴至ル子等ガヲ喝采ハ童子買
ナドソ所作ゴトク夢トニ入リテ又々
飲シ足ハ大ニ飲シケリ同夜ニ出テ
再ヒ天決ヲ経物進ニ就ク揚子谷ノ後
物妖声ヲツヅテ、呼ゴ中村喝采ス
カザノ怪音ヲツヅテ、慮ズ。サスガノ
妖獸モ引ケテ取リテ退クヲ追ヒ止メテ
退治シルハ源三右エトナリラン。
是ト中村ハ或ル知モテ汗ハ行キ余
ト山回トハ余ノ富ニケリ大ニ飲ム余
ハ多ク酔ヒ大ニ扱ヌ康ノヲモ及バ
リナ一ト幸山同知リ一ト足リケリテ
直ヤニ倒ル寐ヌ余ハアトノ仕マツコ
トカヲ思ハズ倒ル寐ヌ。フト目ヲサ
マセハ一ト巴ニ登リ、午時、四時ヲ
一トハ東天紅トル年バリエ目ヲ
南トケリ、ナンダ、ナンダ、コレハ妙ダ、
寝ダ、コハ一体ドコダ、ドコダ、アイ
ツハ辰ヲヌカ、ドコヘ行ツコ、オセオセ、

おれの家じやない、コリナー 妙だ、
一体何ラナイ、ナトト 叫ビタツ余
モ自ら奇異ノ異ラシタルが愛ノ申
余モ足ヲ 醉ナ土境ナズ、快惚
トシ捨 快ナルモ、カラロ 兩人
ハるニ 大笑 爽快、直ヤニ 床
ヲ 抑ナク 水式ニ 舞ニ 而シテ 本
式ノ 本夢ノ 見タリ

二十一日(土)

午の春巻茶にて休後ナリ竹夜ノ酒
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

内ニハ中凡ヨキ高後ナリ、送家ニ
人権ヲ生来リ居ソタリ余ヲ欠テ、君
ハ毎日寐ヲ忘ル風ナリナドト云ハル
可也。後ニハ出来ハ中隔リ、其方
ズケニ声ガ低ク聞ヘシ。也。感ナカク
姿勢ト容儀トハ却テ美シク見ヘタリ
コレ可笑シクテ、其ハル。唯匠見
ト一ノ科地、夜ハハリ、将来、万金斗
ニシテ、其味ス中ハ有益ナル物、深ク
ナリ。其ニ由リ、十二時ヲ過シ、又
ハ直クニ寝、其ハ日死ス。コトヲ驚
ル
其レヲズ、何等、夢ヲ見ル乎？

二十二日(日)

九時起き是朝飯、霞山、林原、
 3時、有る、多、ま、直、直、
 3時、飯、田、可、活、治、金、字、修、
 十二時、夜、大、食、は、何、何、
 睡、更、し、カ、余、の、聲、は、
 知、法、の、サ、マ、ザ、リ、
 ハ、時、ゴ、の、ス、テ、大、
 カ、見、リ、リ、居、ル、
 ル、
 縁、助、新、種、十、
 余、の、
 屋、
 足、
 ナ、
 十、

二十三日(月) X

九時の午後二時の電スルニ時
中山岳焼死の事、イナ伊集氏
の事、起るゴザル、コハク山崎、其
珍らしクイテウ坐ル。上へハ隣マ
トケテハナラヌ。奇逢ガケノ下女
は、?夕飯、ハコフ、坂山崎、リ
余ハ夕飯、後休息大ニ起ル、此
ル九時は、相續ハ由テ其ニ(通)
アリ云々、量ヲ睡ガニ、其ハ快
楽ナル、今夜ハ此夜面白
ニナリ、人ナリ、此ノ

二十日(火)

今朝ハサシ花降、気味アリツキ
且ハ九時半迄ハ休持シテ勿論
ガ昼飯ノ後、單身者ト出カ
先ツ地味の上野に出テ、
協同美術展覧會へ入ッセ
テ大画ノ儂考ハ我カ如ク
アビシモ知ラズ、只人形ノ大彫
刻トドカ別リテ、見止スツ屋
ノ
「時足中、此ノまハ吾日ノ時
建會所 所建ツノ結果トヲガム
ト」

二十五日

昨日試験ナルコト正午ヨリ家ニリ
リ大ニ勉強シテ直ニ日暮ニ至ル
八時ヨリ上野ヘ出カケテ園内ニ
散步シテガク學ヲ果テ暗ク誦スルヲ
一篇十時ヨリ電ニ就キ途中江知
勝ニテテ酒肉ヲ食リ後子睡ニテ
十二時寤ニ就キタリ

十時吹山園氏一才リテガタリ

ワ

二十六日

今日ハ武蔵ニハ八時発十時
到リ武蔵十二時ヨリ電ニ大ニ安心ス
真水、山下来リヌ、服中ニ林ノ
ヲ来リヌ有リ、四巻ノ
ノ次ヲ田中、中山、本巻来ル、又
内供、矢島、兩人来ル、本巻氏用
アトヲ归ル次ヲ山岡、那珂来ル
今日来客会ハ十一名也此頃
ナル大入リ。内供、矢島ノ
酒ヲ飲ニ豚汁ヲスツテ旅行
ノ強クナシ余等カ如ク思ヒ甲
州行ハ五州行ニ改メラレリ。山
岡、那珂カ便所ヘ行キし際ニ余等
揚言シテ曰ク「那珂令夫人ハ中山氏ノ
沈黙ヲ評シテ何ニスマシク人ト云ヒニ
那珂ハ吾々彼ハ有名、辨口家ト云
ヒヨリ夫人ハ：ソノナカ更ニ、イナ人
ト云ヒタリ」ト中山氏大ニサギ集英
ヒドヨク那珂氏知ル可クナシ十時半
全リハ十一時止テ訖

日中建築園の警へての早朝ヨリ日暮
 マテ花接ぎをりい小鉢来ル由テ
 先ニ狩野君へ御儀の届ケ余ハ引
 々カヘテ家ニヨリ金七圓ノ取リ
 内持テ行ヒテ内中ノ金ヲ借ッコヒ
 テ御儀ノ松井ノ御供ニ御供ス
 所ノ御儀ハ父ノ病ニ同シ一自分
 金ヲお渡ルヨリ十時ノ供ト共ニ教
 育シ御儀余ハ何ハテ上リ也ニテ
 本ノ御儀ニ御儀ニテ家ニヨル
 リ

二十八日 (土) ?

大に早起して登校 五時半帰宅
 スヤ林来へ靴箱の箱ツヤガテ
 何れ余ハ今夜は供カ来ル候ナ
 ンバ大に待タドモ待テドモ来ラズ
 かり靴画ヲテトシテ何ヲ医心ニ
 見モ中子白コリリ来リ山田氏
 モ来居セリ 何ヲ命シテ大に歌
 けリ行登下ラナレ十一時快コソ
 露ハ靴ノコノ目大兩箱ヲ化スル
 カ女ニシ。

早朝 登校 セニ 教當録 の由テ
 著者 宛 活ヒ 院中ニ 詠カノ 乃チ
 後夕 宛ニ 杜中テ 詠 費ヲ 清ル スル
 ナリト云フ 即チ 高木 氏ノ 活ツテ 甲ニ
 十日ノ 金ヲ 借リ 家ニ 引ル (コレヲ
 先キ 午ノ 四時 迄ヲ 在 校 知 強
 也) 勿 違ヒ 供、 矢島、 中 坊、 之
 少年ヲ 引キ 運ヒ 家ニ 来リ 兄ト 共ニ
 雑 語、 配 布ニ 終リ シ 酒ト 西 替
 ト 馳 走ス 十一時 之 少年 引ル
 金ト 兄ハ 之ヲ 返リ 付 本 以ノ 通ル
 出テ 歸 庭 奥ニ 此ノ 書 引テ 登
 ・ 入り 大ニ 飲 食シ 十二時 家
 ・ 出テ 掃 地ス

内村ニ 金ヲ 返 済ス

四月五日

午時十二時半着茶山園氏に兼テ
儀セし帽子、再ヒ出テ来タリニニク
夫レノ手紙ヲナク等ク時ヲ多ク
二時六人打ヤフルテ新橋ヲ發ス
二時半中里ニテ写真ヲウツシ先ニカ
シテ蒙リヨル余ハ蒙リ着登録ノ喫
酒ハハハニ時ナリ今ハハ者毎ク
筑前山ニ運船毎々催アリニ時ノ座
キト身体ノ疲勞セルトテ見合セトセ
リヤガテニ朝正我氏来ル日着
ナ林厚我氏来ル(コレリ迄ナ余
等ハ平田ヲ行ク故父母今日九州
ヨリ歸来セリ)村井ノ時大石ニ
テリル也又余等ハ大ニ酒宴ヲ張リ
ナ林ノ手ニ飲ニ大ニ解テテ
シテ

今日ハ朝ヨリ大雨降リキリタリ唯ハ
 マデニテ余等ノ飯ヲ食ルハ天ノ雲ニ
 叶ヘル余等ノ運命祝スベシ。九時
 起キ飯ヲ中寫生画ノ彩色ニ着手ス
 コノ日淫雨シキリテ幸リテ外出スル
 勇氣生セス彩色シテ日暮シ又小
 林原野氏事ヲマカテ眠中ニ
 來テス次テ失島ノ供ノ兩葉ヲ
 ル余ハ小林眠中ト名ヲ多シテ大
 ニ抱クスルヲマカテ兩葉十時迄キ
 帰リテ供ト失島ハ十一時半ヨリ
 余ハ眠中ヲマカテ終ニ就ク

午時 小井ビールヲオゴリ家
 270ル 彼ハ翌日ハ実地演
 習ニ赴クナリ

1. 4 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

七日 (早朝の修練等)
おと又、剛剛

今日ハ昨夜大雨晴シルニ寒風
烈シク次々ツ九時越キ朝飯ヲ
喫スル中江原氏東訪ス迄ハ
百出興甚多シ然レ今朝向島
行キト云フ正午酒一升ニ合テ飲
ム風止シテハ外出シテ
所ハ中山表亮氏来リ次テ直水英
氏来訪スナガテ直水氏ヨリ十
次即氏来ル亦直水氏ヨリ江原ハ
西朝平氏、傳テ見テ極ナリ平
然ハ西氏ノ為ニ大ニ周旋毎走シル
ハ中々ノ腕利キナリ中々ノ奇抜家ナリ
日暮田中、申出ル、子供氏来リ
昨日鎌倉へ来リシハ赴テ去リヨ。
コレクテ甚ク大ニ段入リガ江
原ヨリアトハ取切中、行テ去リ
案更ニ急キテ酒翁ノ命ニ胸臆ヲ
開ク十時半迄去リタリ今日
記スツテ十ニ時迄ニ此ノ毎日
多クハ雨有テ費スハ浪費ニ似テ
浪費シテガナルナリ

今日一人ノ女藝出来リテ兄ト大
ル金錢上ノ利害ニ及ベリ兄ハ決リ
多感ノ体女ハ執ヨツ斬ツヒヤ、今
度トイ人ニスリツケテ矢ハヲナト仰
シヤフハ周ッマス……三角をサン傍
へモラ流シマシクイ伊東サンが半金ガ
内出シナスツ下サル様ニツア展ル
ト申マスデ……” // 吾トイ丈
ハ大ナ尙違ヒダス身ハ三角をノ利
係ハナイノダスカラ……” コノ尙
中ル而白シ江原ハ直ヤニ之ヲ斡定
シテヨツ通申セリ

八日

九時起きて登校す誰モ居ラス室
テ十一日マカ休シテ思ヒ正午家
ニヨリテ画ニ從子シ髪ヲキリテ午
ニ時家ヲ出テ先ツ同村ヲ行ク不
ナリカレテ野崎ニ夫レヨリ山岡
ヲ行ク地ニ不存ナリ次ニ中山ノ
ト野崎ト見候ヲテラス中山
ハ大ニ酒肴ヲモテテ馳走セテ余
ニ先カニ馳走ラ受テ微醉ニテ九時
半家ニリルニバラクニ山岡ト
来テ話シ三十分ニテリルニ十一時半
中山ヨリ借リタルカウ見テ讀テ意ニ
ク今日ハ中山ト云テ是レノカウ見
テ野崎多ク見タリ實ニ感心セシ
連山人ノ野崎ニテ借カ十五六オト
全ク無踪ナル貴公子ノ風愛スベキ容
貞アリ十八九オトニテハ癖ヲ生シ方
今ニ至リテハ全ク上品ナル風
致ナク如何ニモ半可通ノ氣取屋ト見
ル人ハ己ノ童想ニヨリテ容貞ガ漸
次ニカクル凡ソ人ノ心ニ思フ所ニ外

こ見ハルガハナシ慎シ可ク恐ル
ベシ尾崎紅葉ハ流石ニ下品ナルヲ
ナシ彼ノ才ハ常ニ嘉眼高尚ナリ世ノ
美術家タルモ、表ニ高尚純潔ナル
思想ヲキキツノ美術ハ全ク價直ナ
品格ヲキモノトラン恐ルベシ慎シバシ、
思案外史ノ人相タルヲ毒悪陰嶮
ノ氣充滿シ野鄙ノ風溢シタリド
シテモ立派ナコトヲ書ケル人間ニアラズ
彼ノ著作、常ニ下品ナルモ亦宜ナリ哉
江見水陰モ亦甚ク感心ニ堪ニ
余露伴ノ面相ヲ知ラガシテ余ハ必
ス彼ノ顔、鼻、口、外ニ一種ノ高
尚ナル所アルヲ思フ

九日

午前十時登校十一日、ホニトースター
 件ニ休校同様ナリ即チ家ニツテ文
 章ヲ繕リトスル中正午ニ至ル村井
 沖来訪ニ昨日笠石へ出立スルニ云
 フ由テ有る身ニトニ関スル語ヲ述
 ナレ日ヲ暮シ夕見ニ夜席へ赴キ
 余ニ村井ト九時頃ヨリ家ニ出
 日暮同村井氏来訪次テ阿部繁
 次郎ト云フ長術鑄物師来ツテ
 ワヤホリコトヲ筆見ニ夜席へ赴キ
 余ニ彼ト語ヲ終ルニ彼ヨリ村井
 来ル由テ昨日笠石へ出立スルニ
 リ九時半余ト村井ト酒飲ニ出カケ
 屋中祇産氏ニ逢テ即チ三人毒虫亭
 入りモト富士見橋ニ居ルニ軒一カニテ相
 手子思ハズ過飲シ村井ニ戸棚ツテ女
 福禱ヲ出テ娘ヲ困ラセ終ニ上等風
 昆布ヲ買ヒトスルニ新行ヲナシ十二時
 半家ニリツテ寢ニシ

十日

良才之人何レモ寵辱皆味テ朝暮モ
独ニ掛ル。出立ノ時刻ニ後ニ當感シ崇
ヲ出ワコト申。此れ莫事ヲ正午マテ
況ス午時ヨリ彼ト上野ヲ遊歩シ揚次
ニ早十二ノ頃ニ候キテ暮リカニモ多シ俗
客ハ雲霞ノ如ク花下ニ集マリ酒飲ヤ
ノ歌ヲモノ更コソコスモ。老弱男女賤
新副、綺羅ヲ飾リテ群集スル。毎
女レモスルヲ人死スルヲ人死ル
俗況アリ。此ト上野ヲ遊歩シ節氏ノ
否季館ニ入ル。全館ハ愛國ノ件ニ東
客全ク他ヘテ遊歩ノ余等カ入リ
テモシラツレヤイ、カケ声ヲ出サズ
此ト可成ク飲テ存志ナル者カ、況
況ノナシテ九段坂下ニ同リ途ハ中
條氏ヲ訪ヒテ暫時テ是況ニ次
田中ヲ訪フニ不在ナリ。即ハヤ家ニ
リテ雜言ノ原稿ヲ調フ。尾崎去次
老ニ即來訪シテ是況ニ所アリ。日暮
兩人リテ余ハ竹林ヲ訪フニ不在ナリ
即ハヤ家ニ知レバ田中、中山、山岡

又余ヲ待つ五人共ニ打テ進シ田中
語シ説クモス沖林台十集ツ又ト其ニ
出カケタソアト四人物々ノ説ヲ在アリ
ソバノ地志ニアツキ十時半田中
出陣シ余ハ女御通りヲ冷カレビニ
尾ニ入リテ大ニ飲ミ後ハ碎シテ家
ニ引リ日記ヲアケテ寝テ其ノ時ニ
十二時ナリ

十一日 (土)

今朝ハ土曜ニシテカモ待テ待テ
ポートレースノ当日ナリ余ハ今朝大車
ニ赴キ阪中氏ヲ訪ヒ雑談ノトニ付キ
一時有ラシクハ此ノホホヲ言フルニ
在リ即チ家ニリヨリテ休息シ昼飯後
狩野ニ立チ寄リ墨ア宅ニ赴キ又ハ
梅苑ハ十ヤノ頃キタルハヨクハ俗者
雲霞ニ立チコメテ立錐ノ地ナク
煙立チテツ心ノ地ヲキテ堪ヘラズ
場内ハ知レバ网友多ク往来徘徊ス
ルヲ捕ヘテ流シテ試ミカク時ヲ
潰シツレニスラ欠物セリ(即チ、
伊勢崎三此野ニ去リ、有ル
地ニテ、喜多村桂一郎、高橋源五
郎ナドハ思ヒヨラザル人ナリ)レースノ
召集ニ入リテ大ニ柏餅ヲ食フ所
作リナドアリ。レースハ工料ノ大出
来ニテ一割トシテ勝タサルハナク余ハ
リ冷流家ニサヘ胸マテサレフマニ程
嬉シク在リテ喊テ作ルニ至リタリ
チャンピオンニテ工料君尾ヨク勝テ

ルガコノ時トドハ一物ノ腹カ脹ヲ支取
セト見ヘ絶叫痛ノ奥ヲ蔵ヲ唱ヘ拍
手鳴聲セシ勢スサマジ、匠法ニ料、人
皆スゴ(ト立テリヨルソノサマイト氣毒ヲ
エ科生ノ夢中ニツテ昏キケルア業一人ノ
妙齡ノ令嬢(シカモ高島田ノ僊妻ナル知
藝)誰カ押シ倒カレ無ザシ右半面
ハ紗ニマビシ彼ノ義シキ右ノ頬ト醫ノ右
腹ハイタク傷シ損ハレタリ義人ハ起キ上
ラガラ塙ニモタテ腹ヨル操ヲ誰一人掛
レト思ハヌコ見カハリモセズ走リ行ク若シ
エ科生ハ直ヤニ祝嵩ヲ張ラントヒヤシカ
余ハ平田ヘ招待サレタルバ見ト共ニ車ヲ
飛シテ平田ヘ行クコノ夜招待ニアブヨ
シモ酒田、茂木(此職ナリ)高木夫婦
及息子、吉川、武井、祐亮兄、余、
大塚、矢島、子供、及キコトノ者トナ
リ宴終リテ茂木氏ノ例ノ講ヲ立テ
ソタリコトイ伊佐山ト云フ苗カ一孝行
ノ為ノ谷風カ御為ニ偈リマユル一
路ナカラ情深ク義厚ク且ツ所々
ニ滑稽ヲ狭ム所中々上手ナリ也

如ク増國多オハモノハ多クアザル
ベシ高木ノ花薔ニヒスバ又一股ナ
リハ耐キ半毛田ヲ出テ家ニ帰ル
冷酒ヲ飲メテカヨ日記ヲツケテニ
射事ノ後ニ就リ

即至ハ今年ノツリツト云フ洋人ニ向ヒ
余ハ今大學生ナリナド法螺吹クヲ
聞キタリ片腹痛キヲコソ

去田収去(カキト云フ)カキニ心ニ解ヒ目
尻ヲ下ケ余ヲ欠テニツリツト笑ヒ可笑ナ事
ツキシテ余ヲ取キタリモ可笑シ

去野雄ニ即仲ニ氣ニカハヌ風作ニ
テズニクシク艇庫ノ上ニビニ心ヲ寄リシ
ルモ氣ニ入ラス

法医ノ人々(余ノ知ルベキ)余ノ次ニ毎ニ
内目出テ云フ余ハ御等ニ此ノ氣ノ毒
様ト云フ、エボクノ人ハ愉快ニナト云フ。
エボクニツハ一ノ Steamboat ヲ借リ切リ
コレニエボク生ヲ載セエボクノ boat ヲツケ
廻シテハヤシ立テル一ノ新機軸ヲ

十二日 (日)

日曜ナレバ朝露ヲ 匡フセトスルヲヤ
九時半山岡来訪シ 余ノ肥ヤ中ノ一段
休、失テカハル件ヲ取り消シ曼コト云ノ
中々氣イカハル性ヤナリト一山岡物
ル余ハ昼食ヲ終リ休息ノ後家ヲ脱ヒ
出シ先ツ平田ニ至リテ飯母ト一ツヲ游
リ新シ込ニ夫シヨリ 易士見ケノ中條ヲ
訪フ九段坂也! 探死見ゴトニ更キヤ
レバ余ハシバシ之ヲ眺メヨリ 實ニ余ノ
多忙ナル今年ハ祝賀也、探ッ見ズニ仕
舞ヒケル中條ヲ訪ヘドモ 祝賀也、探
訪フノ違ヒサテ、多忙ナ身トハナリ余去
年

いつモ世子後を身としてホウ春も

早敷リかいら親ヲ欠ル哉

ト概キガゴハ毎年ノ操ノ覺ユ年々歳
ノ花ガドートカデ人が何トカヤラ面倒
臭ヒコトハ大嫌ヒ、仲ノ風流ガルモ
ワマラヌ、眞ジメデ居ルモ氣ガ利カヌ、
一ツ大謀叛ヲシヨカ? 否ヤイヤツレモ
宜シクナイダロー、ソナラ何ヲスレバヨカ、

ナニ? 勉強シロツテ? ヘンヤニ野暮ナコト
ヲ云フ男ガ。嗚呼シロツタイコトダ。人間ハ
何ゾニ生シテ来ロ一、ナド、熱ク吹ッ
モ必竟氣候ニ浮カレタ凡夫ノ浅マシク
自ラ自分ニ愛想ガ尽ケル位。ソノヤク
四角張リ。晝後付ニ後付テ中條政
恒老大人ト旧メカシ一談シテスルモ浮
世。ド一ナラ中條先生ノ一時有ニ巨ニ
日本国体論ヲ撰誌セリ。五ノ時田
中氏ヲ訪フ氏余ニ酒肴ヲ馳走セリ摩
北、簡ヲ食ハセタカシ、口比意地ニキタイ、
テモ仕方がナイ……田中氏ト邂逅シ
余ハ松井ヘ用ヲ足シ田中ト其ニ那ヲ
知ルヲ聞フ彼ノ見ト云フ人モ居リ
ク見ハ丸キリ、田舎モノニテ性致モ
浮薄ニシテ愛目ト云ツタリ、尻ホド
モナシ、那珂ノ見ニ相應ダトハ田
中ノ悪口。〃何ノダ、クダラ子一田舎者
ダトハ余ノ冷評ナリ
今日ハ余ト田中ニ酒ハ飲マセシテ餅
ヲカニハセタリ、何ト思ヒ遣ヒラシメ
ラ、サテクツゲツマ、余ハ又ハテ流シナリ。

今日那珂ト彼ノ北方ノ寫眞ヲ得テ
時田中ト別ニ那珂ヲ歸シテ家人リヨ
レバ見モヤガテリヨリ来リ手ツマヲナ
ル、中々見モ奇人ナリ、ドーモ云ヘヌ
所ニ見モ奇行アリ、余モホトクコレニ
感心シタリ。又ハ途中ヨリ佳者ヲ買
ヒ来リシガコレヲ希ニ兩人ニタカニ飲
寫眞ノ評等ヲ南キナドレテ睦マシク
樂シシトニ時返キ寝ニ就ク

山
:

十三日 (月)

今日カラ受授アルバヤト直ツニラス
ハルマイト思ヒ居ルヤセ時節ヨリ
内供即シカケ来ル彼、熱心ハサル
ナガラ彼モ余、朝露ヲヨク知リナガラ
去ツハ無情ナ……。余ハ子々々眼
ヲコスリテ彼ニ打テ文ヲ教ヘハ時々
授テ欠ルニ教授ハ居ラス、學生モ居
ラス、ドコーカ今日モゴマ化シナリ
余ハ直ニ解剖室ニ入リテ屍ヲ見
大ニ得ルヤアリ正午家ニ帰り紅葉、
色サツラ讀テ大ニ感心シ一冊ノ文
字思想、ソハ政年来潜レシヤ、ガ
ムクト出来リアラガントスルアラカス
隆ニ之ヲシテ居シ余、眼ヲト布セシ
ムルニ至リ、如何ニ輝紅葉ハ中ニエラ
キヤ復家ナリ。沐浴後夕飯ヲ
喫ヌヤガテ内供昇陽氏来リ次テ
小林原氏来リ、今ヨリナリ得テ復
ヨリ。ヤガテ兩人ヨル。余ハ
好メル和装ニテ津保ノハナキ
テ松井ノ用ヲスマセまシヨリ内供ヲ

訪ヒ 千坂矢高等ニイバラ名論ヲ聞
カセ 15俵ノ水ヲ貯テ文ヲ作リナカレ
テ半白向斗リ十時別シ十時四十
分帰宅セテ教ヲ授ケ日記ヲ認メ
見テ居ラヌ故ニ得テ好酒ヲテ
サレノ酒ヲ飲ミテ一々氣ヲツクラウ
而シテハヤ頭ニ汗ニ及リ厚ク付リ
時ニ十一時四十分ナリ

十四日 宿寺中 小林 伊東 来ッ。

十四日(火)

八時起き九時登校ス。此カレ 教員・仲
校に別ニ仕事モトニ一学期 意匠ノ試
演ノ成績ノ欠ケル

伊東 眞水 山下 河合
78 72 68 62

先ッ余カ第一ナリ併シ八十以下ニハケシ
面目ニ否辰野ノ揮筆ガ氣ニカハヌ
午後ニ時家リリ大ニ室内ノ整
頓ニ衛生ノ字ニ生活ニ睡氣催フニ
加之昨夜夢中ニ出現セシ一場ノ洗
劇目ニツキテ思ハス 假令此ニ度ハ
足ト神林ト云フ男来ッ 勿論ス 四半案
归ル余ハ久シクテレハトオルガシ
事ニ日暮ヨリ足ト共ニ表竹亭ヘ赴キ
燃後ノ 圃キ大笑シテ 聲ヲ忘レ併シ
我丈史ト違ヒ 跡ニ実ガ残ラス。 事
ヲ又所ガ去テ 益カルカモ 矢ケシ又ナリ。
归途ニツクダニコボリシ 事
シ 津砥等ノ 實ニ家ニ向リテ 足ト 教員
ヲ 頃々 (コレリ先キ 梅酒ヲ 備ヘリ)
日記ヲ 付ケテ 二時 終リシ

十五日 (水) 雨

七時中起の前後一睡、要夢ヲ見ルハ故中
心中鬱々として繁マソノ夢ト云フハ一半ハ
伊豆假遊ノ夢ニシテ浪津ノ停車場ノ何
ヤ紛々ト生セシ一半ハ余ト余ノ愛友ト
完島幹也トト云フ一ノ葛藤ヲ生シ殆ト絶
交トマテ決セシ珍夢ト云ル。之時半リ
電報志ヲ務メテ日暮中山氏車ル迄
況甚刻次テ山岡及那珂来リ大ニ酒ヲ
飲ム那珂例如ク大ニ酔ヒ余等ノ冷
カニ睡トナルヲ歎ル何快ナク彼ハ先
廻リ兼ヌルヲモ顧ミズ何カキリ辛
スルヲ余等ハ忽チ酒落オトスコト
大ニ驚アリテ命ス。午時十一時
ニ寤ル其ノ如ク余ハ日記ヲフテ十二
時迄ニ寝キタ。今日正午カ林
澤院氏来リ五十歳ノ書而来ル
ル。那珂ノ食店上デガ一生ノ望
メリ養好ハ今ト云テハ不必要ト云
ヒ山岡ハ角カ取リテ引キツラ大電
ヲ操行スルガ何ヨリ繁ト云フ
ヒテ岡氏ノ性根ト云フ

十六日(木)

余、天道ヲ知ルニ名スルモノハ今日、
 日記ヲ後ノ鳴呼史ニ今日ノ日記ヲ後ノ
 ヲ。六時目ヲリミシテ九時打テテ床
 ヲ離レズ 朝飯 菜ハ兼ヒ大好物、アツ
 ナルゾニ挽キヲ化シケル魚ノモノ。正午
 家出ノ人ヤラテト待テモ待テモ来ラベ
 ヲ。来スマガナト思フキハ、午多ク人ニラテ
 リ来ヨカシト思フ日ハ生格ニ来ル人モ
 シテ浮世ニヤ。午ノニ時 医校
 院中ニテ病ニケ飯食ハ村ニテ直キ
 疝氣屋ヲ尋テ母ヘセオ再ヒホ林氏ヲ尋
 テ九時迄ノ虫ヲ虫像クマテ起トスベテ
 鏡等カツト云フモ金キキカガリ十時
 リ至テホ林氏ヲ尋テ酒音ヲ引母ヲ
 コリ本ノ酒斗ヲウ箱ハ何モ九。コレ
 何カ氣ガキカス、ツッ山氣ハ内後ノ蒙
 リ然一。

余、今夜 醉、疾ニ目ツハ面白キ一烟
 ナリト云ヒ 世ノ生ニ、物ニ云
 信、此ノ不ノコノコノ思ハ
 ナリ、不可ナ。思ハモハモ……

十七日(金)

例如、正八時至正午長安部、及
空島來話又併(別)面白(現)九日暮
旧電及上其(吹)又(視)序(心)

政棚 55

文玉 30.

白石丸

呂華 56

意女房

箱妹 88.

鈴江

子津 58.

新江

小政 90

海島

成績の就中箱妹上の時、此出
上(行)世(共)月(夏)心(如)累(心)
归(途)又(如)買(家)心(同)大(海)島
了(張)了(上)事(友)介(甲)友(地)這
心(心)了(心)心(心)午(時)心(心)
心(心)心(心)

十八日(土)

正午ヨリ雪止、河田河、鈴島邸へ建築
見物、行々中ノ立派ナル建築ニテ少シク感
心セリ、勿論江戸存行方ト有益ナルを以テ
ヲナシ、八時中條ヲ過ヒテ存名ヲ行テ正
シ松井邸へ歸リ、車ヲ戻シテ中原
ヲ過ルハ足在リ大ニ簡シ、食ヒテテ
後シ見ハ死ノ戦ハス十二時家ニ归
リ、後ニ就ク



田中苗吉御氏 昭和二十四年
春装束

十九日(日)

十一時ニテ朝食³トシ昼寝³ 豫約セリ
昼飯・後餘³ 好天氣ニ浮カレテ家
ヲ出テ先³ 岡村オ子³ 訪ヒテ一時³
3時ニ次ニ長系³ 理³ 訪ヒ 行カ
拜³ 婦³ 十³ 尺³ 八³ 離³ 十³ 繁³ 此³ カ³ リ³
次³ 五³ 軒³ 河³ 長³ 島³ 浅³ 亭³ 士³ 訪³ フ³
不³ 花³ 十³ 即³ 上³ 野³ 公³ 園³ 内³ 三³ 分³ 又³ 分³
ト³ 野³ 寺³ 之³ 塔³ 路³ 野³ 女³ 十³ 野³ 十³ 見³ テ³ 俗³
氣³ 生³ シ³ 次³ 十³ 山³ 園³ 三³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
一時³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
之³ 人³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
食³ フ³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
シ³ 半³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
ニ³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
同³ 題³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
隨³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³
無³ 島³ 主³ 我³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³ 十³ 分³

併し又ソコハ妙ナ理屈ガアルモノデ一概
ニハ人ヲ評シ難シ只シ中山日、君ダシ田
中ダノ僕ナドハ女房ヲ持ツト云フ柄ジヤ
子一ト不知コノ言當ルヤ否ナ?世ニ
女房ヲ持ツヌ柄ト云フコトアリヤ?女房
ヲ持ツベキ柄トハト云フ柄ナルナ?コ
考ヘテ見ルト何カ妙ナコトサッパツラ尺ガ
分ラヌナノア、モ一四五年、同ハ一切
女房ナド云フコトヲ考ヘルハ止メナガ
宜シイ子一。

象ノ物ヲ能クシテ、改正ニ從テ、日記ヲ
ツケテ十二時教シテ、今日モコマト
手帳ヨク一日ヲ遊ビツグレタ 謹

20 月

函、小林坊ヲ、一旦来リ更ニ小林
ヲ訪ヒ津保所へ赴キ家ノ内
小林車坊ニ酒ヲ飲ミ米次君
ヲ敬拜ス!

21 (火)

正午宮島、長谷部、小森東へ
 日暮、比叻山、栗山、山田東へ大に
 往返す西御所、成、子、テ、往返
 あり其他雜法石出ス中山、近頃
 往返研究申使余モサレ往返
 街ヲ幸バンテ思フコトハ芝日江原ヲ
 行ヒテ家ト對立シ往返ヲキラスハ
 何ヨリ不都合ナレバ余ハ大に往返
 街ヲ研究スルナリ能ク云ヒヨリ思
 ヒ付キルナリ余ハ酒ヲ出ヌ足屋子ヨ
 リ何リコトハ日暮日ニ出ト共ニ往返
 ナリ然レモ足ハ余ニ共ニサカシ江原
 ナリ共ニ連軟ニ居ナラシ密ニ居リ
 タリ十時半山田、中山往ル会
 場トハ十一時半寢ニ決シ

22 (水)

早田了房のtanハ不在on..
家アツ前ニ归ルニ是不在也
ニ後席へ行ハ是アノ違事ニ
吹又キナリ

- 只幸 65 岸作松
- 只陽 60 欽ノ吉
- 子孫 50 區春新
- 小孫 85 勘作

十時半酒會ニ38キ無令鐘ニマビル
houseニ赴キ三本ノビールヲ飲ス
夕暮ニ酒アテ會ニ大合ノ酒ヲ飲シ
大ニ酔アテ寤ニ到リ

23 (木)

帰電後 夕飯を食へ 子田を訪れ 始
ハ kindト共ニ 世ビガト オトニ 進ム
ヲ 説ク 十ニ九 好シ 當 平田ヲ 辟 御
即チ 訪フニ 足 妻ヲ 尾ノ 田中ニ 来ル
ナリ 五月ニ 等 見 哉 三ニ
十 時 半 帰 電ニ 就キ 家ニ 帰リ 足ト
酒ヲ 酌ニ 十二 時 迄 飲ス

24 (金)

五時 旭暁ス 昨、一昨、南曇風ニ
引キ込 今旦、北帯、北大雨トツ陰
氣ト夕曇、後小林氏 來訪 ス十
時 史同氏 旭ニ 余、明日 休業ト
ルヲ以テ 大ニ 畫書ヲ事ヒ 且ツ
好酒ニテ 大ニ 飲酒シ 一時ト
寢ニ就ク!

25日(土)

今朝ハ休日ナハ十時ニテ朝巻ニ正
 ツ工科、ボート勝利祝宴會院
 笑ツ申工科大学中庭ニ拵揚ヒ
 ヲ人ニテ市学長、博士、及ニ学技職
 員等モニ徒ガテ石六十名一同バツ、
 花ヲ押シ石六十人馬車トリス十
 台、一人車リ人カ車ニ打テ集リテ
 リ込シハ、順節ハ先陣樂隊、炭炭、
 42ピオ、職員、学生、生徒、テ長
 ナ五町ニ巨リ流ル、気色立ナリ向島
 ノ船庫止ニテ一同集リ學長、祝辭
 アリ次ニ博士學代、旧42ピオン、
 祝辭アリ、地音リノ電報機文
 節後アリ次ニ42ピオン、答辭アリ
 次ニ有志者、演説アリ、causeニ
 樂隊ヲ交ヘ、吹ル、燈ヲ君ヲ代ト、真島
 子ニ氏ノ作ニカレ、歌ヲ唱ヘ、万歳、
 ニ武ヲ演リ一同ボートニテ去島ヲ
 マテ、赴テ再ヒ船庫カヘリ、競漕ニ
 ナス、月ヲ五、智分マテ漕カレ、人モ
 一々漕カセ、バトナルバ、ワイトヤンカ

中々面白し余も喜現、中に入リテケルガ
 固辯に終に出デサツケルバ中々大々
 余も此種セシ人モアリ四月ハ、言中
 孝世行止為、孝士六為、戦兵、
 既博ク何モ面白シ終リテ地事
 之當ノ用、真野氏(面談)三喜座
 三止フ、漢後アリ門馬氏、演説モ
 一固遊ニシテ左市公威氏、起テハ島
 一鐘曲ノ、淫ヒ且フ舞フ、務漂烈ツ
 ツ、他ニミ、踊ル百藝ヲ出ス
 余ハ後、今泉氏一其ニシキリテ終
 了スルテ概極快哉ヲ極メツ
 併シ余ハ多クハ醉上テ心ウケツ先シ
 レハ如ク、劇ト戯レナド云ヒタル
 ガ余ハ可笑カリ、或ル婢が富美
 氏ニ深ク惚心シテツ、廻シタルト及
 ビツノ婢が余ニ、噫ツアカリシトツケク
 余ハ其ノ醉フテ殆ト知覺了夫ト
 高橋氏ニ扶トラシテ、荒レヨルノ、何對
 ナルヲ笑ラス、余ハ余州事ニ醉ヒテ



為、余ハ腸ノ人ニ欠
 カルタルハ余ハ深ク後

ユル所ヲ去シテ余、腸ハ方モ腐敗
居ラカレバ人ニ見ラレテモ耻カシト、思
ミドモ只、或ハ洗眼ノ人アリテ余、奥行
ヲ測リ矢ニツタルナリト、思フバ、余ナガラ
イトオゾマシキナリ。奥ニ角余ニ近キ
ニナキ大醉ヲナセリ、夫レモ、掬挾ナリ
ヲシテ、ツツ、掬挾ナリ、有餘ナリ
ハ、大儀、分ツタルコトナラズ。

廿六日 (日)

昨夜(18時) 宿ノ宿解シ正午27 舟(17)
 午前7時中 吉氏来リ今般(1)海(1)舟(1)舟(1)
 了朝(1)午後一時小舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 了(1)提(1)去(1)中(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 次(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 赴(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 百(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 就(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 物(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 立(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 余(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 以(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 此(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 が(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 主(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 り(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 一(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 同(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)
 舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)舟(1)

ヲ見計ル止テ路ニ一室ノ跡ヲ見
Gidayu 同大ニ橋掛リ江原ヲ
ウチノ路ノ上ニ見ル江原ヲ遠ニ出ル
天神ニテ一柱立セトセモ 此内ノ
所ハ早蕨ノ木ゴ(1)ノ跡ナリ

二十七日(月)

正午十田切, 長谷部来ル。日暮字代々,
服本来ル。自修アリヨル余ハ 津保町へ用
アルヲ以テ是ノ田中ヲ汚ラシテ後
基ヲ固メ田中, ツバト酒場也走ス, 九時
中山来ル余ハ十時田中ヲ歸シ家ニ
归リ樽酒ヲ代々々テ飲ミ終ル

二十八日(火)

午前十時起行尉の提分國體ヲ携
へ車に乘りて芝公園に赴き醫學博士
余等ハ名山教脚ト笑つ廟殿ヲ一殿スル
シツテ後攝日支ニ考ラズ彫刻如キハ却
テ築造セハカ如シ一老母廟ヲ見テ曰
ク余カ幼時見トキハ金色煉瓦對殿ヲ
廟ヲテ缺ハザリシガ今ハ昔シ形ノニ存ス
マデトナリトヒテ思ヒルベシ余ハ六代
將軍ノ廟ヲ寫セテ來客群衆ノ余ヲ
圍ヒ候ハ觀觀ヲ覺ハツテ午飯ヲ喫シ
直ヤ二時電ヲ寫セテ歸途ニ登リ五
時止ル迄夕飯ノ後教頭ニ出カケテ
御ノ勤工場ヲ冷カシ歸途用學司ヲ
買フコト代價一月二十事極テ廉價
ナリ余ハ之ヲ酒飲ニ代テ價乃シカ
ノ儀ナリ家ニ歸リテ大ニガラクタヲ整頓シ
テシテ氣持ヨクテ是モ十時頃ナリ
十一時急睡ス

611

二十九日(水)

之時退校 駿河へ立寄り次で 詔所
に参りて 3児を 養ひ 夜討に 参り 磨心
也 富士 早 中 中 中 中 中 中 中 中 中
外ハヨキ心付キテ 参り 参り 参り 参り 参り 参り
後夕に 立寄り 西陣 召 召 召 召 召 召 召 召
(この建築計画 爲す) 次子 家 子 子 子 子 子 子 子
夕飯 後 又 上 共 之 甚 竹 へ 赴キ 後 復
引 間 々 イ ン ナ ガ ラ 中 々 中 々 中 々 中 々
昼 大 雨 之 途 ノ 二 人 鳥 籠 入 リ 大
之 飲 食 十 一 時 半 勿 論 之 後 之 後 之 後 之 後
コ 以 天 氣 忽 々 晴 忽 々 雨 忽 々
寒 忽 々 暑 サ ン 別 々 別 々 又 々

三十日(木)

昨夜思ハス多量、酒ヲ飲ニ為シ今朝ハ
大ニ朝寝シテ十時登校ス今日余カ巨
州學道中場岳及天城峠、尾上ヲ訪
教師次セテ添筆ヲ乞フ吾山氏寫出片
ヲ復キ且ツ添筆ヲ加ヘテ此ニ回画忽キ
シテ沈黙セリ如何ノ様繪画ノ專門家
トテアリ五時帰宅シ夕飯ノ後散步ニ出
カケ先ツ暫ク剃リ次ニ本郷市中ヲ漫
歩シ二三ノ買物ヲ潤ヘビニハ house
stet²ニテ先セリヲウチカ、思ヒカニ
支分ニ散步シテ八時帰宅シ、パロマ
ノ沐浴ニ從テ中々ウマク行カズ
シテ若シハ其ニテ忘レガ為ノ業ヲ喫シ
趣セテ食ヒ雜画ヲ事トシ十時迄キニ至
ル頃見中原ヨリ归来余ハ日記ヲツケ
書畫ヲフバケテ十一時五十分寢ニ付キ
タリ

五月一日(金)

ピラミッドの計画に五時過ぎに家へ帰り
小林来つて在り彼直りヨリ見、夕飯後
(夕飯ト云ハズ) 夜席へソツ返り余ハ
おたく仕事スル所へ山下屋次郎氏来
訪大に悦ばスル所へ阿部 繁次郎
云フ人來訪余ハ彼當ハ此ニ跌トリ
此ニ泣セバ彼ハ留寄トナル所スル
甚シク浮世ヲ脱シテ務メタル余ノ末
熟ナル故ニテ流流ノトギレトアリ
主客無言ハドーモイケヌモノト余ハカ
ク流流ノ學ヲ研究セシ思フ阿部ハ
鷹山公ノ銅像建立ノ熱心ニテ
余ヲ推シテタル事業トナサントセ
余ヲ推シタル人モアルカク奇妙
ナリ呵々十時半客去ル所酌
酒ヲ飲ミ十一時半後ニ就ク

土月二日 (土)

今日ハ土曜ナレバ パリの、為ノ
お母マヲ在校シカモ好天気ガニ
嗚呼仲ナ高買デハアルヨ。
归電スレト直ヤニ服本氏来ルコト
昨日午代本亭ニ有妻會ヲ用キ
未だ中學ノリ置テ我セナリ 見ハ
夜席ヘ行ク妙ニ見ハ今日絹ヅク
ニ黒紋付ナリ。余ハ小鉢、山岡ヲ訪
フ共ニ不在ナリ 即チ家ニカッ全シ
ク絹ヅクニ黒紋付ニテ (見ハ子計
ナシ) 夜席ニ行ク例ノ圍ニ即座ニ
ノ馬鹿ヲ光シニ願フ解キ橋本助ノ
妙音ニ現ラヌカシ (アラヤダヨ)
ブラッ内越テサシ引ケ、先ト
归途ニテモズラク。家ニテ飲ムハ易
ク外ニテ飲ムハ難シ Geldノ向
係アリナリ 今日ハ外食セント
即チ鳥又ニ行ク コハ、ロハ
テヤサヤレノ内酌ニ予テラント云フ
下等ナ野心ガアル故ナリ 天晴ノ
伊東 潜 龍 大先生 デモ 勤 及 也

野心アリ況ンヤヲノ他人オヤ、オヤ
オヤしくコレハナゼレ一子。果シテ
姉ヤンノ内酌ヲ飲ム矢張り足ヲ
ノ手酌ヨリ飲ミ心ヨシ、實際ノ
ヲ先シテ。多田寛ナルモ、妻ノ合セ
共ニ鼻飲レ十二時返キ家ニ
ヨリ schnell mit in die
klappe verstopfen セリ

之日(日)

少シ寢癖ノ気味アリ九時起キ直ニ
小林氏ヲ召ヒ執務ヲ行フ取リ家内
ヲ見ト共ニ中井揚、香何字揚等
ハ同同志等トシテ川上大吉、柳
谷卯之助氏等トシテ我ニ交際上少
シリ得ル所アリ来客者凡テ二十七名
誘引及ヒ山ノ中左ノ、新附カ
桃川如燕、満流アリタリ隣室ニ
徳島、某等アリ之電速ト曹遇ケ大
シク説クセリ余ト見トハ大い酒ヲ飲
ミ飽分ラシク我ニ中注意ニ置バキ
ナ

(1) 欽本深キ印ナキ若満腔、精
却リ吐露シ余ニ教ヲ示ハント云
シ快談及ヒ彼ガ山ノ3賦評
セシ始末

(2) 岡ト云フ憲師、秋月ト云フ詩條
師、多ト云フ音楽者、柳谷ト云
フ文字者、各ヒ余ト云フ建築
家トガ大ニ異術ヲ論ジ同ハ
シナリ

(3) 満場、人各々其學に就我の欠
カゲル中家見知り兩人は身サ
テ相手と管の巻キにガヒステ、外
目立4タル

(4) 一人、婦人來守セしが已れり
ニテ工合悪ク思ヒレテ直4ニ
りり去リ

此ナリ余ハ次回、幹事ニ墮バシ大
者感セリ併し幹事々以上ハ何カ
影工夫ヲ出シ大ニ集、注意ス引ク
モ亦何ヤカ利益アルト思フナリ
大時山外共ニ同レ山口ニ立4寄リ
ハト勸メタルに彼ハ妻子アル身ハ
バニテ強テリヨリ余ハ今日ハ強
強スルノ念ナレバ兩ヲ犯シテ直
4ニ去ルハ赴キテ決3取ル
次ニ本郷ヲ教示システ、
ビールヲ化スルケ家ニヨリ日記
ツケテ寝ル。嗚呼今日ハ面白
幕シク。惜哉決決一件ノ事
ニ出席セザリシハ。

四日(月)

八時起き大い慌て登校五時帰宅夕飯は
 蕎麦を出かた(先礼席)先づ女御西片町了
 蕎麦スルこつハ字義凍着マ蝙蝠芝草気
 取リルハクク行オスル(ト出カケル令嬢令嬢往
 来マテ満テテウカリスノ際ヲ合セム斗マ
 コハ義形ノ間ヲ左ニバツ右ニ斬リヌケ或ル牛
 ハ密槍マツ奥向ヨリ〇〇〇〇或ル牛ハ月同カ
 グト〇〇〇〇或ルハキハオツマカゲロウ……
 山岡ヲ行フル不在ナリ即チ家ニリヨリ出直シテ
 表行ハ行キ帰途直前何ノソバキヘ
 カケヒシ大ニ不興ニ催シヨク子マテ
 多ク恢復シ十一時帰宅十一時
 半寝ル矣

土日(大)

今日ハ節句トシセウ起キ芝公園ハ写生
ニ赴ク車賃十銭ハケト損セリ。写生中
物ル人物余ヲツマキテ漫写ス

(1) 画家ハ同クア日ク、公ハ巴エ何日
コニ費シ玉セシ、ナニニ日トナ、ソレハ
早ヒコトデゴサル、油ヲ多クナサルハ
ナニ水粉画ノトヤ、拙者デゴザルカ?
拙者ハソノ一文人画ノデゴサル

(2) コレハドモ羨シイ。イナニアナタ
サジ内面倒ナコトデゴザローナ。ド
モ早感心仕ル

(3) ハーナル程アルガアレテ、アルガ
アルダ; ナル程フ。ー

(4) 内トサン、一サ内髪ヨ、奇麗ダヨー、
ヤー、龍ガ出来テイルヨ、アラ内トサン
一サ内髪ヨ

(5) モレ内カサマ! 一サ内髪ナサイ、マ
ドモ奇麗ジヤアツマセンカ!
マモ一ツシ内待ナサイナ子ー
マドモ一ツシ内待ナサイナ子ー
子ーホトニ!モ一ツシ内待ナサイナ

サイヨ!

「アノ人ハ大教授ノ方ゾー、大教授ノ人ハ皆ツ立派ダコト!.....」

「コレ内花ヤ、イツマデ見トシテ居ルレダヨ、遅クナルカサマ一内出デナチ」

「ダツ内母サマ、.....!」

(6) ヤー、アノ門ヲ書イテハレダナー、奇装ダゾー

一折テハレマンノ氏来リテサシク食ハレシ
フナリ五時書シマイ松寄氏ノ所ヲ
ニ貸屋ノ札針ニハツテアリ余ハ一怒リ噴
シテ軒屋先キラ迄降ノ人ニ行ハバ四時迄
到着ナト云フ余ハ失望シテ車環ニ家ニ
归リ五月ノ葛蒲湯ニ入り夕食ス脱布鉛
松氏来リ次テ尾崎吉二郎来リ山岡
茂松氏来ル等沈黙割ハハ時迄来去
去ル余ハ九時終考ニ出カテ野原ニ
登リテ酒食シテ十時五十分日也十
一時止見歸リレバングスヲ持来ス
十二時後ニ起ル

六日(木)

三時 切り上ヶ河合屋敷の西人と共ニ
靖子神社 繁乳の貝物に出カケタニニ
年振ソノハバ 中々眼筋の面白ク貴
姓老翁 群象 雅當、現場記スルマ
中々クダマシ 今日ハ競馬ト純トアリ
余等ハ純ノ貝物シ 諸々ブツキタル
ガ例ニナガラ 貝物場、奇ニ怪ニナリ
為キタリ 归国ノ坂下ノ勤工場入り
河合ト物産ノ品 浮レテ面白ク家
ニヨリ 食ス 燗酒リテ 足ト共ニ夜席ハ
赴キ(吹又キ亭) 我々共ニ聞ク

- | | | |
|------|-----|----|
| 親大夫 | 油巻 | 65 |
| 生駒大夫 | 八陣 | 90 |
| 富大夫 | 寺子巻 | 67 |
| 燕大夫 | 大田巻 | 60 |

燕大夫ハ今年十二才可愛クシキ童子ナリカ
音調美ク姿勢大人ニ要ナラス 中々優ク
幼ナドノ及ブ所アラズ 実ニ感心セク
は 逢キカンヲ 賀ヒ 来リ 希ニ 帰宅ハ
一形ヲ 催フニ 處ニ 就ク

七日(木)

四時帰宅 早飯ヲ食ヒ車飛テ兄
孫素ノ江原ヲ訪フニ不在ナリ即チ中條
氏宅ヨリ訪ヒ兄ト逢フテ夜光自出中々
面白シ精一者又、弘註諸氏列座
ヲ大ニ興アリ七時 中條氏3名幸ニ花火
ヲ見、ヨセバヨイニ生人形3見ル昔ニ
小枝ニ立テヨリタルヲ余ハ馬鹿ケ様
ニテ人形3見タル風体録程間枝ケタ
ルモノト見ヘ或ル Taschenziel 余ノ
羽織ト袴ト綿入トトトニテ袂ニオ
テ許リ切リ開キ袂ノ中ヨリ紙屑ヲ盗ミ
去リタハツ帰宅後氣付キテ大ニ弱シタ
コトモ三枚絹物ヲ拵出者ニトシテハ
ヨソ行キモノナリケレバナリ余モ餘ッポドノ
傾馬ト見ヘルト余レガヲ呆シタリ余ハ予
テ或ル教キ人がスリニ金トラシタルヲ嘲ラテ
アホニ致ス可ナリト云ヒガ今ハ我身上ニ
ナリヌ。九段下ノ勸工場入り出テ津
保町ヲ數寄シテ供昇陽氏ニ逢ヒ其
ハ川河ノ牛鹿ニ飲ム余ハ何れ格ニ
公ノ酒ニ酔碎セリ十一時店ヲ出テ

人力車に乘りて帰るに就き余車夫の比
咄に車夫大惚心奇汽の家りり
ア足ハ余ノ粗行の咄ノ余ハ服セエシ
向ハ尚差之兩人急キ登リ就ク。
時二十ニ時事ナリ

七日(金)

例(通)五時相嶋ニ六時御供, 中山
田中, 小林, 山崎, 新沼, 中山ト田
中ハ同時ニ田中ハ今夜宿直ナリト
ナリ 多少ノ酒ヲ命ス 山崎ハ屋ヲ
マテ 諸君セリ有見 為毎ノ為ナリナリ
家去ルナリ 多少ノ酒ヲ酌ニナリ
ニヤゲアリ 多少ノ酒ヲ酌ニナリ
炭ニ就ク

午時五時山田 飯免了路
理管スルハ昨日ノ音楽者ハ出
席スルナリ

九日(土)

一、時子直十時帰宅直ぐに飯了
 喫し足上之着了出テ車ヲ飛込芝公園
 園内弥生館、女子手藝学校音楽
 会館の山田、中山二氏余ヲ逢ニ
 留シテ早午ハ芝ノテ舞ヲ一見
 去リ云々由リ余ハ學生仲引ト誤
 詠リ之人ヲ見物ヲ経ルセリソリ
 多ク、子都令アツタル是ノ舞ハ
 隈ト見物シ十二時止弥生館へ
 登リ山田ノ居カト大名義ニ即休ノ
 用施コシ、一回テ席上上等席ハワ
 リ心シテ、素會者ハ手藝学校女子
 徒、各令嬢令園令徳居等乃至
 ハ待女等凡テ二千人ソ中女一
 八百人男二百人許リ。女ノ中妙
 齡ノ長形六分以上、点ノ六十点以
 上即ハ美人ノ資格ヲ有スルモ、百
 名八十点以上即ハ絶美人ノ資格
 アルモ、十名余アツキ、一時泰西
 音楽アリ次ニ滋川、切田令嬢ノ
 及洞門滋川嬢ハ實ニ無罪無欠ノ

終

義人十兄弟、百点ト云余ト云山田ハ九十
点ト云中山ハ八十八点ト云つ實ニ美人
十人ナリ次ニ十三人連リ清潔全奏アリ
山田其合同者、二人笛、三人月琴、三人
胡弓、一人胡琴、一人〇〇琴、一人木琴ナリ
次ニ落後アリ文蝶、直化トテ面白シ
因テ印ヲ如キハ、令女長貴婦人ノ前ヲト擧ガ
野新隈整地ナリ云フハ片腹痛カリ
次ニ物ヲ大夫ノ三十三巻アリヨクノ不
出立ト面白カラス。子覺ツニ市川築川
、所作子アリ彼ハ六十余、花田ナリ云フ
カ中々輕健ナリハ好キ入りタリ何ニセヨ
今日ハ先ツ上等ト夜席ハ入りト同シ
ルモナリ其面白キヲ堪ラズ殊ニハ
義人、中央ニ立テ考ク皮ヲ見破ラレタリ
又ハ義人、顔ヲ見破リタリ両方ハ穴ヲ明ク
ル不始末ニ至ル所中々味アリト知ル
ベシ學生ハ工料八人 医料五人 法料不
会セテ十四人アリ。何ツまシ工料生、
多キヤ、何ツまシ文料理料ノ全ク
キヤ。工料生多キハ或ハまシ工学
ハ義術 或ハ招待ツニ由ルカハ可ヤ

今日知、人ハ三擲、合家落ニテ
其他不擲加之、川上大夫ナドハ
東方アリシ

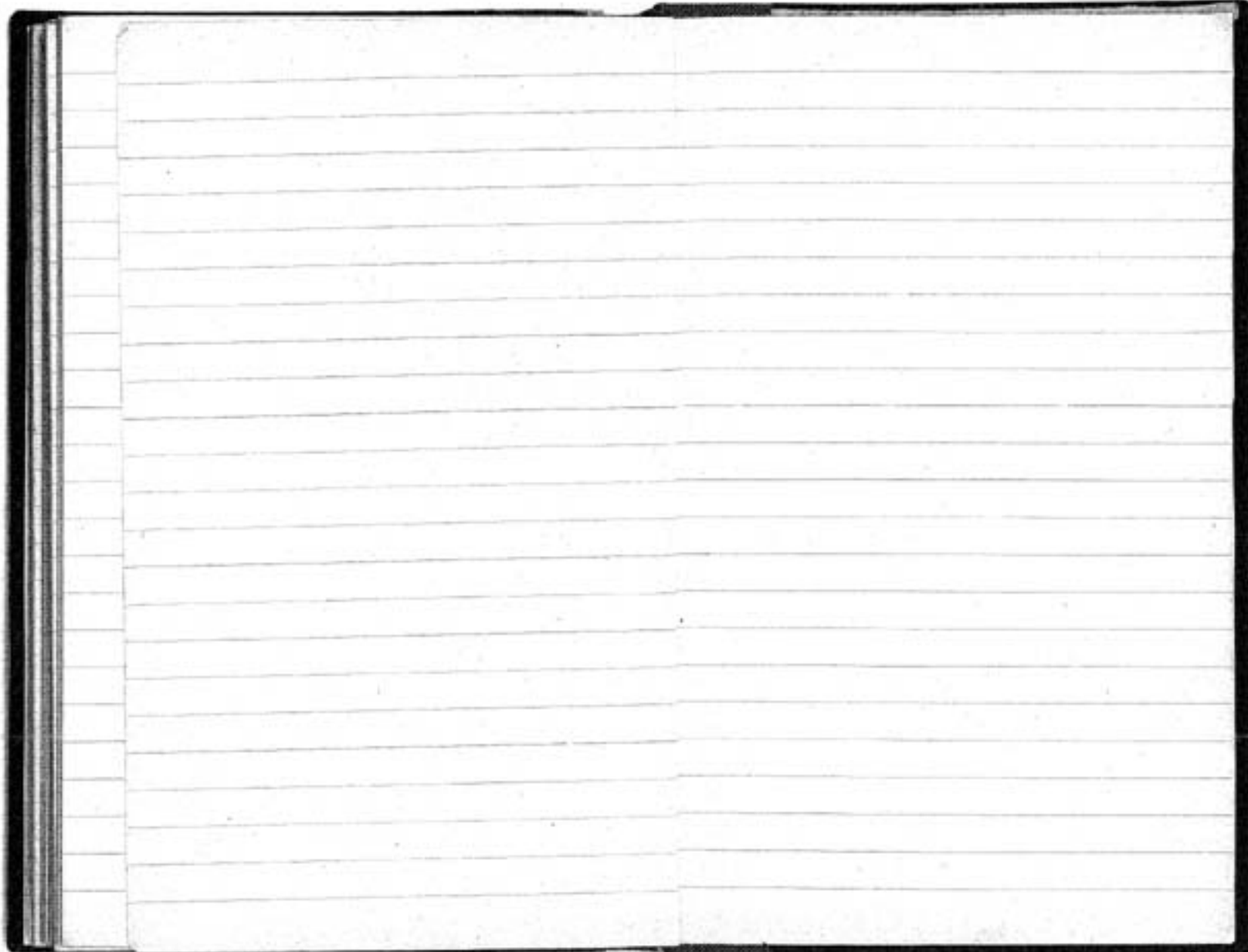
云ヒ残セテアリソハ下ノ室ハ教授生徒
ノ作カニ押花ト上ノ室ハ裁縫物ノ陳
列セリ又氷山連ニ即氏能勢守氏ニ
代リテ短キ演説ナリ且ツ幹子ノ女子ハ
あソナリ届ハ旨ヲ附セラルク、席ハ三等ニ
分テ上等一月中等五時半下等三時半、切
符ヲ發セシニ余ハロバテ上等ハ入ルセシ
ハ愉快ナリシ

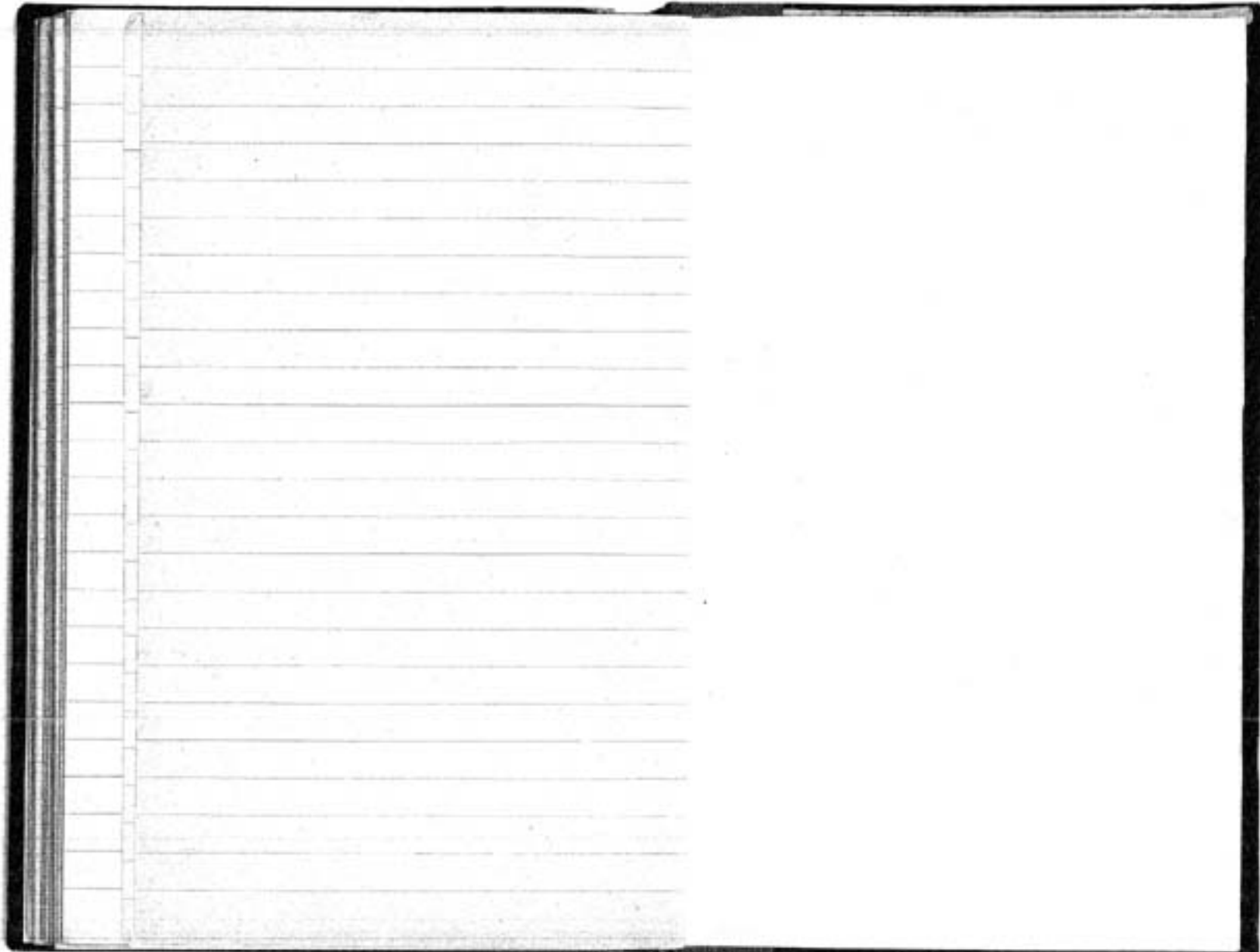
六時ヨリ運ニ就キ中山山田余、宅ノ總ヲ即
チ酒ヲ飲ミ肴ヲ食ヒテ快活ニ果ハハドホ
カシク鳴シテ大声ニ唄ヒ山田ト足ハ起テ而
シテ踊ル盃盤狼藉十時五十分兩家
去ル余ハ酒ヲツバテ十一時半迄ニ就
今日ハナキダニ心神躍々ナル程ノ女子又
氣ナルコノ案ヲ尽シテルバ其快甚美
云フベクハス、實ニ近頃ロニハナキ好土曜日
ヲナセリ、カニハ其夜、夢ニモ何ナラ一ノ
女子ノ身命ヲ見タリ外ハバア^{（女）}師範學校
ニテ僅セシ毎ニテ余モ見ヌホニシ、知人モ

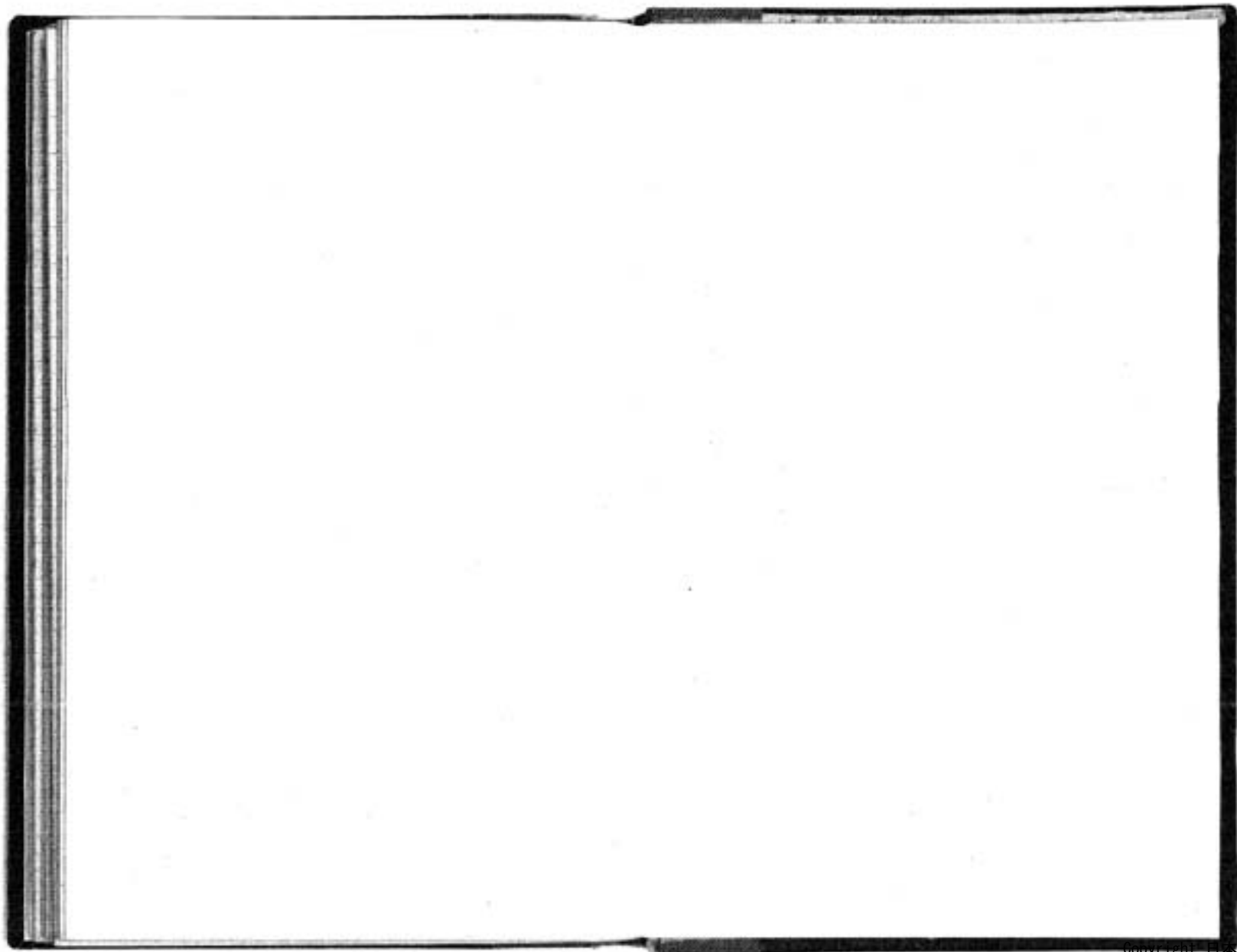
臨席に親シク周旋シテ令嬢等ト笑ラセ快
語セルヲケツ後酒宴アリ兄ハ頗ル醉ッ
テ余ハ介抱ス尽ス暮ノコアリ又余ハ正帽ヲ
破リタルノコトナドアリ然レモ毫モ野蠻
猥褻ノ分子ヲ夢ニス只ダ高尚ナ
ル愛情ノ(至極)ヲ夢レルモノハ抑々
余ノ心中一点ノ野心ナキ所以ナルカ
呵々

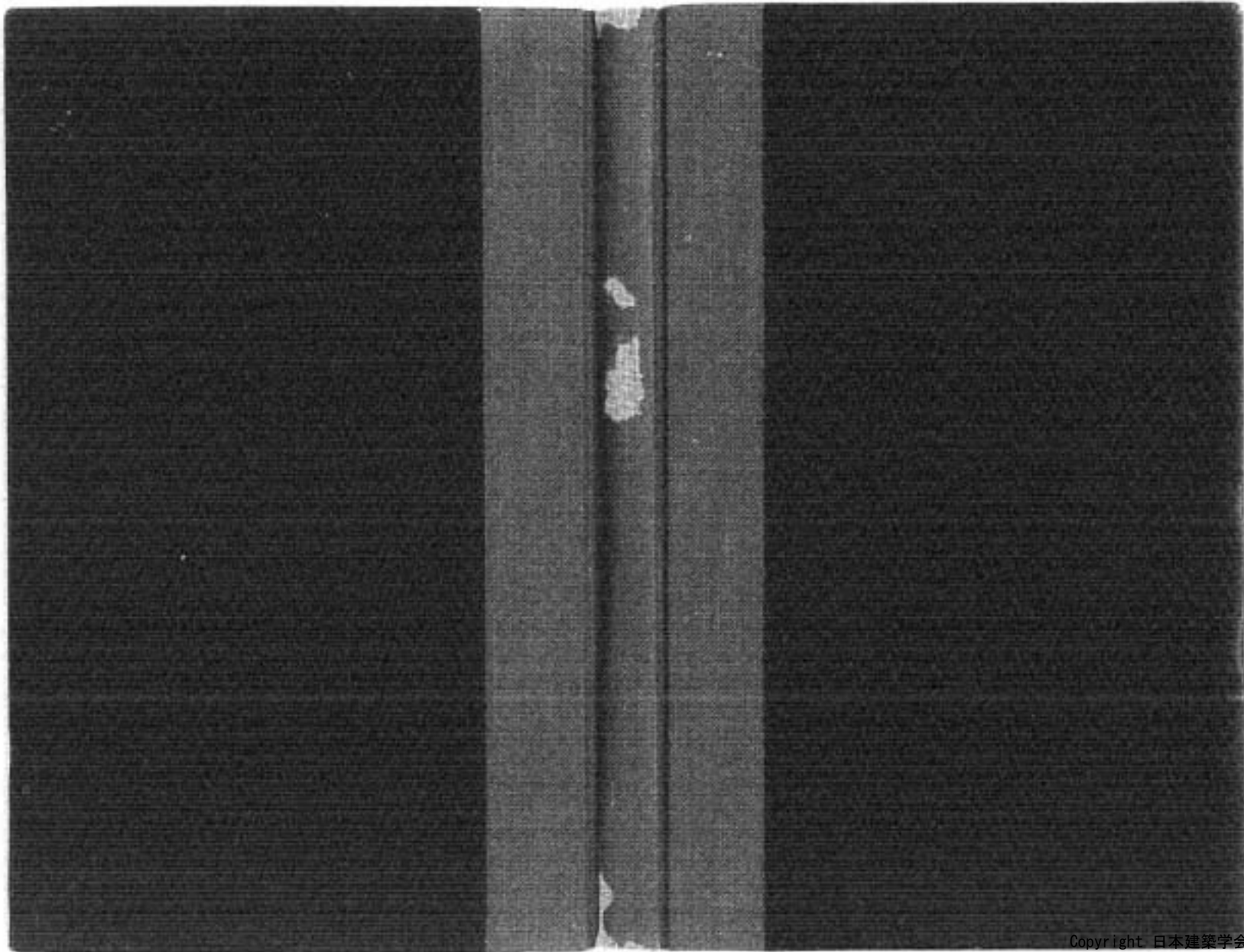
十日 (日)

水星太陽ノ著ヲ通過ス (極上天気)
ウレノ氣味アリ正午ヨリ芥火ノ
汚ッルハ裁判可ク構造ニ付テ復向
セト思ヒテリ 然レ留學ナルニ由リ直上
ニ即座ヲ汚ッ却テ酒盛ヲ用ク向キ
細中、中山東筋ニ居リテ日暮ニ至ル即チ
四人連テ田中ヲ汚ッ田中ニテ酒ト
ヲ馳走ス余ハ少ク辭ヒ十一時中山ト
共ニ帰宅ス









9

9

M. 24. 3.06
~ 5.10

うきよのたひ